

**モロッコ国における地震災害に対する
国際緊急援助隊救助チーム
活動報告書**

平成16年 4 月
(2004年 4 月)

序 文

2004年2月24日未明（現地時間）に発生したモロッコ地震は同国に人的及び物的に甚大な被害を及ぼしました。日本国政府はモロッコ国政府の要請に基づき、一人でも多くの人命を助けるために、国際緊急援助隊救助チームを同国へ派遣しました。

距離的なハンディを乗り越え、ヨーロッパ各国の救助隊とほぼ同時期に、他地域の救助隊としてはいち早く現地入りし、搜索・救助活動のための調査にあたりました。結果的に、現地ではモロッコ国救助チームと住民の連携により、生存者の救出はほとんど終了しており、日本を含め、各国の救助チームが現地に到着した時点では、救助チームの活動対象となるような現場がない状況でした。

国際緊急援助隊救助チームはモロッコ国へのこの派遣の機会を利用して、現地の防災局（Protection Civil）の救助隊員に対して、日本から携行してきた機材や救助犬による搜索活動のデモンストレーションを実施し、また、携行機材の一部を取り扱いについて十分に説明したうえで供与しました。

日本の救助チーム対して、モロッコ国内務省官房長より、遠い日本からの救援、デモンストレーション、機材供与について言及され、深い謝辞が団長に述べられました。

本報告書はその活動についてまとめたものです。本報告書により伝えられる経験が、国際緊急援助隊の理解、そして今後の国際緊急援助隊救助チームの強化につながることを願ってやみません。

この度の地震で命を落とされた方のご冥福、そして一日も早い同国の復興を願うとともに、国際緊急援助隊の活動についてご協力とご支援をいただいた皆様に感謝の意を表明いたします。

2004年4月

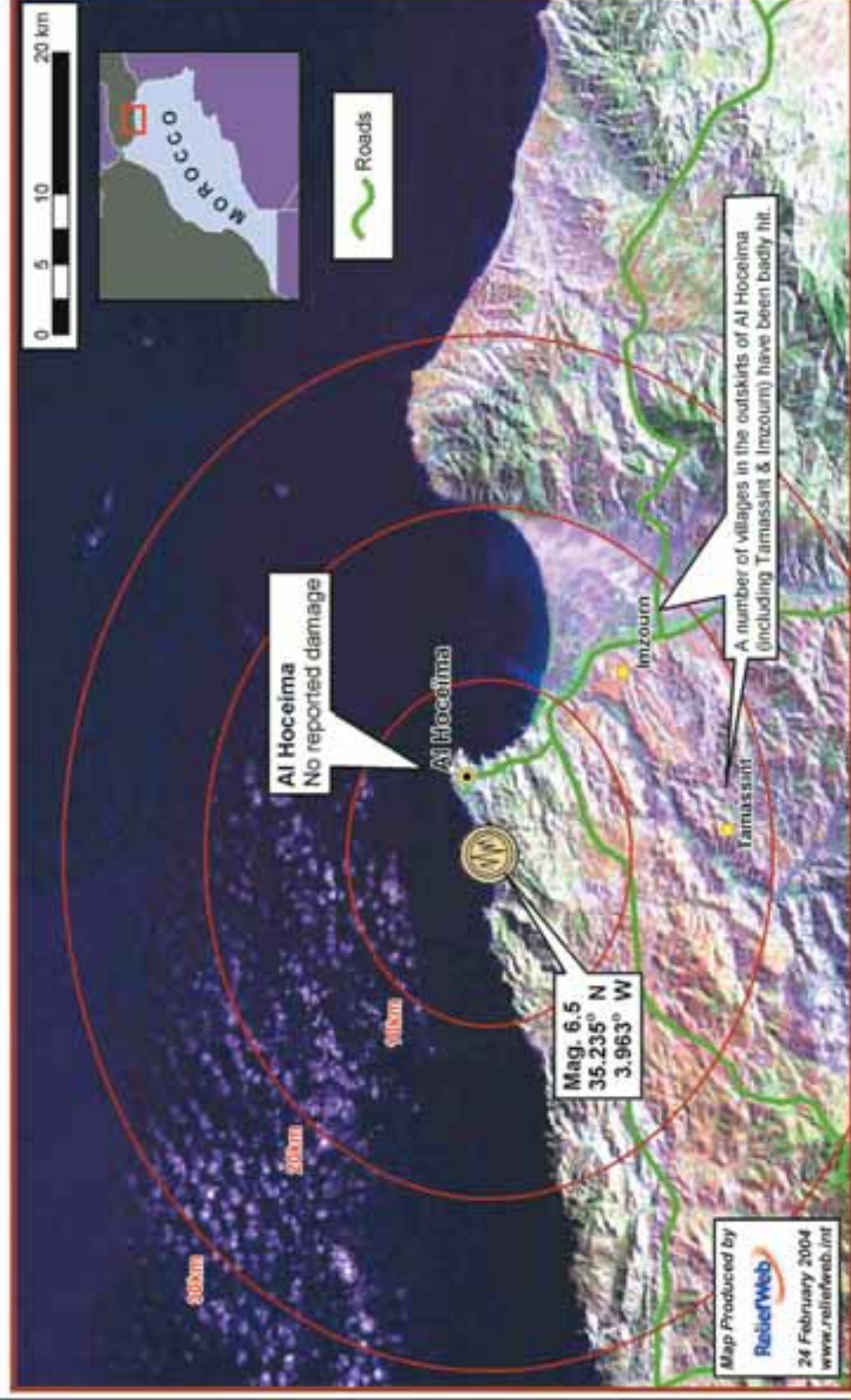
独立行政法人 国際協力機構
理 事 伊 沢 正



Morocco - Earthquake

OCHA Situation Report No. 1
24 February 2004

"The inhabitants live in mud structures, are said to be worst hit, and the death toll is said to be around 140 people, with the possibility of figures going up to 200 - 300."



The boundaries and names shown and the designations used on this map do not imply official endorsement or acceptance by the United Nations

Al Hoceima region
Morocco

Overview map

Satellite image interpretation key



Disaster type: Earthquake (6.5 on Richter scale)

Disaster date: 24 February 2004

Data source: USGS, Univ. of Maryland

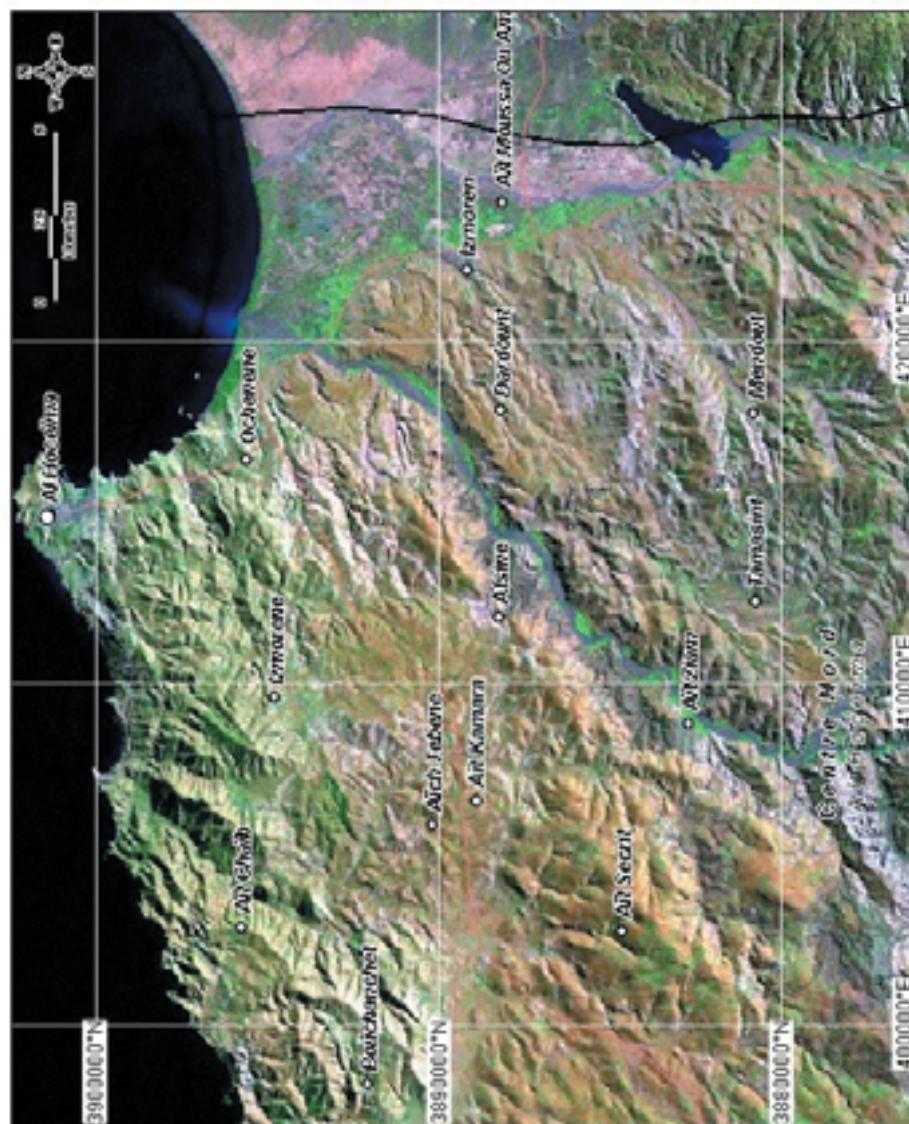
Resolution: 30 m

Image acquisition date: 9 February 1987

Datum: WGS84

Projection: Latitude-longitude

Map created 24 February 2004.



The International Charter on Space and Major Disasters aims at providing a unified system of space data acquisition and delivery to those affected by natural or man-made disasters through authorized users.

Since 1 July 2003 the Charter is available to support the United Nations with satellite imagery. Contact the UN Office for Outer Space Affairs for further information (cosos@unvienna.org).

This map was produced by the UNOSAT project headed by UNITAR and executed by UNOSPS. UNOSAT is a UN-Private consortium providing satellite imagery and related geographic information to UN humanitarian and development agencies and their implementing partners. See www.unosat.org for further information.



UNOSAT 
satellite imagery for all
www.unosat.org



UNDAC との打ち合わせ（到着時）



カマラの群集



被災地調査 1



被災地調査 2



現場代表者から説明を受ける団長



状況を確認する副団長



壊れた建物すでに救助済み



避難キャンプ



ドナーミーティング



救助犬デモンストレーション1



救助犬デモンストレーション2



救助機材デモンストレーション1



救助機材デモンストレーション2



救助機材デモンストレーション3

目 次

序 文

地 図

写 真

第1章 災害概要

1 災害状況	1
2 被害状況	1
3 モロッコ政府の対応	1
4 諸外国、国際機関及び他援助機関の対応（5月26日現在）	1

第2章 活動内容

1 派遣までの経緯	2
2 活動クロニクル	2
3 活動概要	8
4 評 価	9
5 派遣メンバー	13

第3章 業務調整報告

1 移動・輸送	15
2 ベースキャンプの立上げ	16
3 生活環境整備	16
4 報告・記録	17

第4章 総括・団長所感

18

付属資料

1. 活動報告書	23
2. 携行機材リスト	31
3. OCHA Situation Report No. 1～No.6	33
4. 報道関連資料（モロッコ、日本）	51
5. JICA モロッコ事務所便り	69

第1章 災害概要

1 災害状況

発生時刻：2004年2月24日 午前3：27

（日本時間5月24日 午前11：27）

地震の規模：マグニチュード6.5

震源地：モロッコ国アル・ホセイマ市近郊

2 被害状況

死者数：564名以上、負傷者：300名以上（5月25日時点）

3 モロッコ政府の対応

モロッコ政府と軍、プロテクション・シビル（Protection Civile）が救助チームを現地に派遣し、救助活動にあたっている。

4 諸外国、国際機関及び他援助機関の対応（5月26日現在）

（1）国連人道問題調整事務所（UNOCHA）がUN地域調整官と連絡をとり、情報収集にあたっている。また、現地UN機関として、6名による災害評価チーム（FAO）を現地に派遣。

（2）国際赤十字が救援活動を開始予定。

（3）その他各国が救助チームなどを派遣。

アルジェリア、ベルギー、フランス、イタリア、ルクセンブルク、ポルトガル、スペイン3チーム（救助、救急車、復旧）、ギリシャ（医療）、米国（災害評価、専門家）、ドイツ（水、電気）

第2章 活動内容

1 派遣までの経緯

2月24日午前11時27分（日本時間）にモロッコ北部に地震が発生し、その第一報に外務省／JICA国際緊急援助隊事務局が接したのがその約2時間後の午後13時50分ごろであった。その後、情報の収集に努めたが詳細な被害状況がなかなか判明しなかった。国連人道問題調整事務所（UNOCHA）の災害情報発信・共有サイトのReliefWebのVirtual OSOCCへの第一報が午後14時25分であることから、日本サイドが地震発生の情報を受け、詳細な情報収集に着手した時間はかなり早期であった。被災者の規模が時間をおって緩やかに増加するなか、モロッコ政府からの要請はなかなか発出されなかったが、25日午前9時30分に外務省は同政府からの要請を受け、関係各省庁と協議の上、「救助チーム」の派遣を正式に決定し、23名の隊員を派遣することとなった。

2 活動クロニクル

（すべて日本時間）

・2月24日

- 11：27 地震発生
- 13：45 外務省国際緊急援助室から情報収集指示
- 13：50 JICA フランス事務所へ連絡

・2月25日

- 9：30 レスキュー派遣命令
- 11：05 チーム構成仮確定（20名）
- 13：30 チーム構成最終確定（23名）
- 17：00 フライト確定（パリからのチャーター便の確保）
- 18：40 エールフランスへの積載荷物重量制限について協議
- 21：20 通関終了
- 21：58 成田空港出発

・2月26日

- 12：25 パリ乗り継ぎ中のチームから電話連絡あり
- 18：00 JICA フランス事務所から、無事空港に到着の連絡
（日本出発から約20時間後の到着。地震発生から約54時間半経過）
- 18：20 チームからの電話連絡。

UNDAC チームによると、すでにレスキューチームの必要はなく、帰ってもらっているとのこと。しかしながら Civil Defense と話し、とりあえず現場を見せてもらうこととした。これからすぐにカマラ村へ向かう。

19 : 20 チームから電話連絡。

カマラの街に入った（アル・ホセイマから西に15km、約30分。）団長・副団長がカマラ村長と協議をしており、ほかの隊員はバスで待機中。今いる場所は村役場のようなところ。一般の人が300人ほど集まっていて配給待ちの様子（物資が不足している様子で実際にテント・食糧・服を希望された）。天候は曇りで寒いくらいである。

村長からのコメントでは、今欲しいのは物資。ここでは活動するところはないだろうとのこと。これからチームはベニ・ハディファ村（車で1時間）に移動して状況を視察する予定。その後、そこから3時間のイズモーレン村の視察をする予定。また、その後イズモーレン近くのタマシント村の視察を予定。これで4か所のひどい地域を視察することになる。タマ・シント以外は道路でアクセスできる模様。タマ・シントは道路が細く、状況は悪くアクセスは困難な見込み。

村長からの情報ではベニ・ハディファ、イズモーレンでは国際救助チームがすでに訪問している。ただし具体的な活動はしなかった模様。国際チームは空港裏でテント村を形成している。JDR チームは今日中に4つの村の視察をする予定であるが途中でサイトが見つければただちに活動を開始する予定。今夜の宿舎は活動を行う場合は現場で徹夜。それ以外の場合はバスでの宿泊を予定。

救助チームの近づけない山岳地域についての十分な情報はもっていない。

20 : 35 チームからの電話連絡

カマラの町を出るときに、住民により荷物を搭載した車両が10～15分程度ブロックされた。隊員が乗ったバスも同様に5分程度立ち往生した。似たような状況が次の訪問予定の村でも予想されるため、全員での移動を中止。隊員には状況を説明し、副団長及び業務調整員とともに空港近くに設置されたインターナショナル・テント村で待機してもらっている。次の村へは、4WD、ミニバス、大使館車に分乗して移動。

市民が政府への不満を抱いている様子は散見されるものの、治安状況は悪くない。

21 : 20 JDR 事務局にて、インターネットのニュース（Associated Press）で「モロッコ地震の死者は571人。内務省関係者発言ですべての者の身元は確認済み。これ以上行方不明者はいない。」との情報を得る。

22 : 30 チームと電話交信。

団長・副団長が集まって今後の方針について協議した。村人は元気な様子であり、医療のニーズは少ないと思われる。

・ 2月27日

0：10 JDR事務局がインターネットで余震情報を得る。現地に電話連絡。

現地のチームに連絡したところ、「2，3時間ほど前に揺れがあった。震度は2から3程度であった。隊員に怪我等はなし。」

現在は視察に行っている2チームが戻ってきておらず、その帰りを待っている状態。

0：32 チームから電話連絡

「団長・副団長で会議を実施している。携行機材の供与（エアテントなど）をしてもよいか」との問い合わせあり。JDR事務局からは問題ないと回答。

現地では白テントを設営し、物資の半分をその中で確保。トイレは空港のものを利用。

他の救助チームとの交流をテント村で実施しているが、ほとんどのチームはまともなレスキュー活動はできていない。理由は村における家が少なすぎることにある。すでに3チームが帰国した。他のチームは自国の軍用機での帰国となるため、それを待っている状態のものもある。ギリシャもしくはオランダはすることがないため物資の配布の手伝いをしている模様。

4地域の視察結果と20時からUNDACの会議でチームとしての活動方針を決定する予定。現地時間24時くらいには活動方針を決定予定。

1：10 チームに物資供与のスケジュールにつき電話連絡。

英国備蓄倉庫からの物資供与について、英国マンストン空港を27日17：00発、アルホセイマ空港同日22：00着（それぞれ現地時間）の予定。テント60張、発電機15台、毛布2000枚、ポリタンク768個。モロッコ事務所への連絡も依頼。

2：55 チームから電話連絡

視察チームが戻ったが、救助サイトはない。山間部での救助ニーズについて尋ねたところ、山間部は道が狭く車両は入れず、海外からの救助チームによっては携行したバイクを使用し、山間部でのニーズ調査を行っているが、それでもサイトは見つからないとのこと。被災地は住宅が散在しており、すでに、各住宅での救助活動は終了、ニーズはない。

チーム内での検討の結果、現地では救助段階は既に終了と判断し、明日27日以降の予定は次のとおりとした。アル・ホセイマ市内に千人規模の避難民キャン

プがあり、そのそばに防災局（プロテクション・シビル）がハザードを設置している。彼らに対し、そのハザード及び携行機材を活用し、デモンストレーション・技術指導を行う。その後、使用した救助機材及びテント等の被災民が必要とする資機材は先方政府に供与する。22 時、英国からの供与物資の到着を待つ、物資を積み下ろし、先方政府への引渡し等の作業をチームにて行う。27 日はアル・ホセイマに宿泊し、翌 28 日首都ラバトに向かう。

治安に関し、住民が援助物資に殺到するような状況があるようにも報道されているため、実際の状況を尋ねたところ、そのような混乱は見られず、隊員が危害を加えられるような危険はまったくない。

3 : 40 チームに電話連絡

現地スタッフの庸上について確認。現地スタッフとして通訳 5 名。JICA 事務所が手配。英語からフランス語及びアラビア語への通訳を行っている。

4 : 20 外務省国際緊急援助室からの情報

アルホセイマ市内において、今回の地震への政府の対応に不満を持つ住民の群集が市庁舎に押しかけ、警官隊と衝突、住民側 10 名程にけが人が出ているとの報道（ロイター電）ありとのこと。

4 : 50 上記ロイター電をインターネットで確認の上、チームに電話連絡、報道の内容を報告し、現地での事実確認と治安にかかる情報収集を依頼した。

6 : 30 チームから電話連絡

今後の予定が決定した。現地 27 日、内務省官房長からの申し入れがあり、団長のみラバドにある内務省に向かい官房長と会う。

それ以外のチーム全員は午前中イズモーレン村を視察し、午後からイズモーレンでデモンストレーションを実施する。その後テント村に戻り、22 時到着予定の物資引渡しに協力する。

28 日はチーム本体がラバドへ移動し、団長と合流。

29 日にラバドからパリ、パリから日本へ向かう。よって帰国は 3 月 1 日になる予定である。

12 : 15 チームから電話連絡

「たった今大きな余震が発生した。震度は 4 から 5 程度と思われる。チームの全員はバスの中にいてけが人はいない。これによって 2 次災害が発生する可能性があるので東京事務局も調査してほしい。」

23 : 35 チームに電話連絡

チームは現地時間 15 : 00 から空港のそばのキャンプエリアで約 1 時間程度デモンストレーションを実施する由。対象はプロテクション・シビル。救助犬も参

加する。現在はその準備を行っている。他のドナーの参画は計画していない。

本日の午前中は相手方に供与する機材と日本に持ち帰る機材の仕分けを行った。

・ 2月28日

1：10 チームから電話連絡

現地時間15時から16時にかけてプロテクション・シビル5名（予定では10名だった）の参加でデモンストレーション（機材使用等の実演）を実施。参加者は非常に大きな興味を持っており、デモンストレーションは成功裏に終わった。

このデモンストレーションの成功は、隊員たちに大きな満足感を与えている。救助犬のデモンストレーションにも強い関心がもたれた。デモンストレーション後、機材の供与の際には、隊員から詳細な説明を聞くプロテクション・シビル関係者の姿が見られた。

チームはこれから、ロンドンからの緊急援助物資の引渡し式のための準備を行う。計画としては機側からの物資の積下ろしを行い、引渡し式に臨む。引渡し式は大使館員が日本側を代表してとり行う予定である。モロッコ側はこの物資の供与に大きな興味を持っており、現地のテレビ局アルジャジーラがテレビカメラを持ち込んで取材をする予定となっている。

1：20 JICA 英国事務所から電話連絡

ロンドンから物資を運ぶチャーター便が空港に到着し、物資の積み込みを開始した。

1：50 チームから電話連絡

電話の直前に震度3.5～4程度の余震が発生。電話中にも再度、揺れが感じられた。全員無事。

3：25 JICA 英国事務所から電話連絡

供与物資を乗せたチャーター機が、ロンドン現地時間18：20ロンドン発。予想到着時刻はモロッコ現地時間23：00。

8：15 チームから電話連絡

アル・ホセイマ空港では、既に到着している機体で飽和状態となっており、現段階で着陸を許可されている飛行機のリストに日本の物資を乗せたチャーター機は含まれていない。そのため、同機はアル・ホセイマ近郊のナドール、もしくはタンジェに着陸する可能性がある。その場合、予定していた物資の引渡し式はできなくなる。

- 9 : 10 JICA 英国事務所から電話連絡
- アル・ホセイマ空港は、滑走路上に故障した飛行機が止まっているため、現在閉鎖されている。そのため、チャーター機は管制塔の指示に従い、アル・ホセイマから180km離れたAngadesというところへ着陸した（着陸時間は不明）。物資はおそらくそこで下ろされることになると思われる。引き続き調査中なので、詳細が判明したらおって連絡する。
- 9 : 35 JICA 英国事務所から電話連絡
- 物資が到着した空港はAngades 空港。アルジェリア国境に近いウジダ Oujda（英語標記 Wujda）の街にある空港。JICA モロッコ事務所とも協議した結果、物資はここで下ろし、ウジダからアル・ホセイマまではモロッコ側に運んでもらうことで調整をしている。
- 10 : 35 JICA モロッコ事務所小畑次長への電話連絡
- 機材の引渡しについて、アレンジの内容は到着した空港からアル・ホセイマまでの車で運ぶ（白バイの先導あり。）。明日の午前中にアル・ホセイマで引渡しの予定。
- 16 : 20 チームからの電話連絡
- 「現地時間7：00にアル・ホセイマの空港キャンプ地を出発した。これからラバットに向かう」との連絡あり。
- 18 : 15 JICA モロッコ事務所に電話連絡
- JICA 英国倉庫から送った物資の状況について質問。昨日23：30頃に予定を変更してウジューダに到着したが、飛行機から積荷は降ろさず、モロッコ時間の朝になった現在ナドールに向かって飛行機は飛んでいる。ナドール到着後にプロテクション・シビルによりアル・ホセイマに向かう予定だが、先は読めない状態。
- 21 : 15 JICA モロッコ事務所から電話連絡
- 「現地時間10：15ナドールに到着。ただいま荷物を車に積み込み中。出発の準備をしている。ナドールからアル・ホセイマまで3時間程度かかる見込み。」
- 23 : 00 チームから電話連絡。
- 物資の輸送について、現在ナドールからアル・ホセイマへの輸送を準備しているが、輸送途中の盗難の危険性もあり、早さよりも安全に輸送されることを重視し、コンボイを組んで十分な体制で輸送を計画中。
- ・ 2月29日
- 4 : 35 JICA モロッコ事務所から電話連絡

現地時間 28 日 18 : 30、緊急援助物資はアル・ホセイマ空港に到着。11 台のコンボイにてナドールからアル・ホセイマに陸送。到着後、物資を空港内施設に収容している最中。収容後、空港内にて引渡し式を実施予定。

5 : 25 JICA モロッコ事務所から電話連絡。

現地時間 28 日 20 時、アル・ホセイマ空港にて、物資の引渡し式が終了し、物資はモロッコ政府に引き渡された。

3 活動概要

- (1) 2 月 26 日、今次地震で被害の大きかったアイト・カマラ村、ベニ・ハディファ村、イズモレン村、タマ・シント村を踏査。
- (2) 2 月 27 日にはモロッコ内務省防災局（プロテクション・シビル）に対し、救助犬及び搜索機材を用いた搜索救助訓練のデモンストレーションを実施し、一部機材を先方へ供与した。

1) 搜索救助活動

今次派遣においては、本チームは比較的迅速に現地に到着したにもかかわらず、現地において搜索救助ニーズが確認できず、現地モロッコ側の搜索救助活動を支援するにいたらなかった。その背景としては、当初予想したほど被害規模が拡大せず、くわえて、現地防災当局、赤新月社及び周辺地域住民総出の迅速な対応により、海外の救助チームが到着した時点ではほとんど搜索救助活動が終了していたという状況が考えられる。

本チームは、マスメディア等を通じて現地の被災状況について情報収集し、甚大な災害であることを予測（例：「最大被災アイト・カムラ村が壊滅状態・・・」AP 等）するとともに、先方政府から要請を取り付け（＝現地救助ニーズの担保）、迅速に現地に到着している（「72 時間」まで 18 時間あり）現状から、チームの派遣自体に大きな問題があったとは言い難い。あえて今回の経験から今後に向けての改善点を考えれば、事前の被災情報（先方政府ソース、メディアソース含め）の正確さをより追求、徹底すること以外にないであろう。

2) 現地対策本部（LEMA）及び国連現地活動調整センター（OSOCC）との協議

本チームは現地到着後、LEMA 及び OSOCC 関係者より被災現況についてブリーフィングを受けた。OSOCC 側は既に搜索救助の段階は終了していると明言していたのに対し、LEMA 側は日本チームの救助活動の可能性の余地を残していた。「発災後 72 時間」の原則から、なお救助の可能性が残っていたため、チームは被災規模が甚大と伝えられていた 4 か村の被災現況を直接視察・調査し、あわせてサイト選定を試みた。しかしながら、結果的には現地でのヒアリング及び隊員による直接観察等から当該 4 か村でチームの搜索救助活動を要するサイトは確認できなかった。

3) 技術交流及び携行機材（一部）の供与

今次派遣が搜索救助活動にいたらなかったことから、日本チームとして実際の搜索救助活動以外に何らかの方法でモロッコ側に対して貢献する方策を検討した結果、現地防災局（プロテクション・シビル）スタッフの能力向上を目的として、携行した当該機材を活用して搜索技術（含・救助犬による搜索）のデモンストレーションを行うとともに、当該機材を供与することとした。

先方は内務省防災局長ほか同スタッフ合わせて5名が参加し、日本チームによるデモンストレーションを真剣に見学するとともに、実際の各機材の取り扱い方について隊員から直接指導を受けていた。供与終了後、同局長から当該機材の供与は今後のモロッコ側のレスキュー・チームの効果的な活動につながり、大変ありがたい旨のコメントを受けた。

4) 物資供与支援

2月28日夜間に物資供与によるテント、毛布等がアル・ホセイマ空港に到着予定であったため、本チームは同物資の引渡し式に参加するとともに、航空機からの物資の搬出及びトラックへの積み込み等、先方の作業を支援することを計画。しかし、同便の到着がアル・ホセイマからモロッコ―アルジェリア国境のオウジャ空港に変更となったため、支援はできなかった。

5) 復興ニーズ調査

災害緊急援助ステージから復旧・復興ステージへの円滑な移行を図る観点から、今次モロッコ災害においても被災地の行政当局関係者に今後の復旧・復興に向けての重点分野、施策についてヒアリングをしたが、今次災害の規模が比較的小規模であり、インフラにおいてもほとんど被害を受けていない現状から、特段、今般の地震への対応という意味での対策事業は計画していないとのことであった。ただし、倒壊を免れた家屋においても被災民は余震を恐れて夜間は屋外で過ごす家族が多く、そのためテントの供給が圧倒的に不足しており、その意味でテント供与などの緊急援助ニーズはある。

4 評価

(1) STOP 評価

1) Speed / 迅速性

派遣決定（2/25、9：30）から出発（2/25、21：55）まで約12時間であり、迅速性判断の目安である「決定から出発まで24時間」を十分クリアーしている。

パリーアル・ホセイマ間のチャーター便の活用（救助チーム派遣で初めて）は迅速な移動に大きく貢献し、チームは発災約54時間で被災地直近のアル・ホセイマ空港に到着し、十

分な実質的な活動時間（「72時間」まで18時間）を確保することができた。先回のアルジェリアでの教訓（パリで8時間フライト待ち）を生かすことができた。

総じて迅速な派遣であったといえる。

2) Target groups／被災者ニーズとの合致及びOperation／活動効率性

この2項目については上記報告のとおり、実質的な搜索救助活動にいたらなかったため、評価項目として非該当。

3) Presence／認知度、注目度

先方防災当局関係者より、遠い日本から遥々モロッコの地震災害に被害者を救うために到着した日本チームに対して謝意が表明されるとともに、モロッコ市民は現地メディアの報道を通じて日本チームの支援を知り、其処此处で本チームの隊員に対して「ありがとう」と声をかけられるなど、現地において日本の貢献はかなり知られていた。

他方、国内においても適時にメディア関係者に情報を提供し、成田空港での結団式や出発時の光景などの映像や出発後のJICAホームページへの掲載により積極的に広報に努めた。

(2) 教訓・提言

1) 防寒着の必要性

今回は被災地に2泊したが、両晩とも隊員は大型バスの中で睡眠をとった。防寒用としてシュラフ及び毛布を配布したが、それでも防寒不足で安眠できる状態とは言えなかった。防寒装備は隊員各自に任せる性質のものではなく、活動に必要な装備の一部と察する。夜間防寒目的もあるが、国際標準の観点からも、他の国際チームはいわゆる厚手のレスキュー・ジャンパーを揃えており、同種の防寒着（兼作業着）を揃える必要性は大きい。厚手の下着も効果的な防寒に役立つ。

2) チャーター便の活用可能性

今回はフランス事務所、パリJALパックなどの協力により、極めてスムーズにチャーター便の手配から現地対応、さらに迅速な現地到着に至った。今後の活用可能性をあらかじめ把握するために、パリのみならず、シンガポール、ロサンゼルス、フランクフルトなどの他のハブ空港でのチャーター可能性調査をして必要性がある。

モロッコ地震救助チーム／評価調査表

	評価項目	調査事項	必要データ	情報源 (*)	調査対象								
					現地対策	関係省庁	被災者	チーム	大使館	在外事務所	国際機関等	事務局	
1	SPEED／迅速性	チームの派遣は迅速だったか	発災時間	事前								●	
			派遣決定時間	事前								●	
			フライト予約（確保）時間	事前								●	
			出発時間（被災国位置）	事前								●	
			到着時間	MR1				●					
			現地空港で機材通関、引取に要した時間	MR1				●					
			活動サイト決定時間	MR1				●					
			活動開始時間	MR1				●					
2	TARGET／ターゲット	被害が甚大な地域を活動サイトとして選定したか 現地災害対策本部との協議により活動サイトを選定したか 探索、救助ニーズに的確に応えたか	県別、市町村別被災状況データ（要救助者数、負傷者数、倒壊建物数、被災者数、生存者数（倒壊建物から救出された人数）	事前、MR1&2	●								
			協議経緯及び結果、活動サイト	MR1	●								
			活動開始時間、チームの活動地域における（要救助者数、負傷者数、倒壊建物数、被災者数、生存者数（倒壊建物から救出された人数）	事前、MR1&2	●	●							
			議事録、撤退日時	MR1	●	●							
3	OPERATION ／オペレーション	派遣前の被災情報は正確であったか 現地日本大使館、JICA 事務所からの情報提供は十分かつ正確であったか 現地対策本部で入手した情報は正確だったか 要救助者情報を的確に収集したか 人員体制は派遣方針に基づき整えたか	協議経緯及び結果、活動サイト	MR1							●		
			活動日報	MR1				●					
			協議議事録	MR1	●			●					
			活動日報、活動総括	MR1	●	●							
	要員	チームの活動はキャパシティー（人員、機材、活動時間など）に相応していたか 指揮命令系統、業務分担は明確だったか 通訳、運転手等の現地要員は適切に確保されたか	団員リスト	事前								●	
			活動箇所、出勤数、探索数、活動時間、発見者数、救出者数、生存者数 業務分担表	MR1				●					
			現地要員名簿	MR1				●					
				MR1				●					

	評価項目	調査事項	必要データ	情報源 (*)	調査対象								
					現 地 対 策	関 係 省 庁	被 災 者	チ ー ム	大 使 館	在 外 事 務 所	事 務 局	国 際 機 関 等	
3	OPERATION ／オペレー ション	技術	隊員の技術水準は要救助者を探索救助するうえで現地救助機関の機能を代替できるレベルであったか	MR1	●								
		資機材	通信機材を十分活用できた	MR1				●					
			携行機材は派遣方針に基づき整えたか	MR1				●					
			携行機材は要救助者を探索救助するうえで現地救助機関の機能を代替できるレベルであったか	MR1	●			●					
	調整・協力	隊員用生活物資の質及び量的に適切だったか	MR1				●						
		現地対策本部は十分な調整機能を果たしていたか	MR1										
4	治安・安全	現地対策本部、探索救助機関と定期的に情報交換し、情報の更新を図ったか	MR1	●				●					
		他の援助機関、NGO などと定期的に情報交換し、情報の更新を図ったか	MR1				●				●		
		現地日本大使館、JICA 事務所との連携は円滑であったか	MR1					●	●				
		派遣前の治安・安全情報は正確だったか	MR1						●	●			
		活動中、宿泊場所も含め治安上の問題はなかったか	MR1						●				
		活動中、移動中も含め事故、病気等が発生せず、無事帰国したか	MR1						●				
	PRESENCE／プレゼンス	必要な休養の確保に配慮したか	MR1						●				
		携行資機材へのロゴ・ステッカーは貼付されていたか	MR1						●				●
		他の援助機関にチームの活動が認識、評価されていたか	MR1&2						●				●
		活動地域の住民にチームの活動が認識、評価されていたか	MR1&2				●	●	●	●			
		被災国自治体にチームの活動が認識、評価されていたか	MR1&2	●				●	●	●			
		本邦にてチームの活動が認識、評価されていたか	MR1&2						●				●
	事務局はチームの活動について最新情報を国民に提供したか	MR1&2						●				●	

(*) 事前：事務局による一連の派遣前準備作業、手続きのチェックリスト MR1:Mission review 1／活動日報、現地総括、隊員アンケート
MR2：Mission review 2／在外事務所による追跡調査

5 派遣メンバー

モロッコにおける地震災害に対する国際緊急援助隊救助チーム Japan Disaster Relief Team for Earthquake in Kingdom of Morocco

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
1	鈴木 栄一 Mr. SUZUKI EIICHI	外務省経済協力局国際緊急援助室 Overseas Disaster Assistance Division, Ministry of Foreign Affairs	団長 Leader
2	渡邊 道雄 Mr. WATANABE MICHIO	警察庁国際第一課 National Police Agency	副団長 Sub-leader
3	中本 敦也 Mr. NAKAMOTO ATSUYA	総務省消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	副団長 Sub-leader
4	玉越 哲治 Mr. TAMAGOSHI TETSUJI	海上保安庁総務部国際・危機管理官 Japan Coast Guard	副団長 Sub-leader
5	坂田 英樹 Mr. SAKATA HIDEKI	JICA 国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team, Japan International Cooperation Agency	副団長 Sub-leader
6	廣瀬 竜夫 Mr. HIROSE TATSUO	警察庁情報通信企画課 National Police Agency	通信 Communication
7	山川 良博 Mr. YAMAKAWA YOSHIHIRO	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
8	相田 秀久 Mr. AIDA HIDEHISA	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
9	横井 千恵子 Ms. YOKOI CHIEKO	警視庁警備部警備第二課 National Police Agency	救急救助 Rescue
10	大窪 太郎 Mr. OKUBO TARO	神奈川県警察本部警備部第一機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
11	栢之間 紀行 Mr. KAYANOMA NORIYUKI	神奈川県警察本部警備部第一機動隊 National Police Agency	救急救助 Rescue
12	角田 八一 Mr. TSUNODA HATSUO	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
13	中谷 守 Mr. NAKATANI MAMORU	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
14	伊藤 学 Mr. ITO MANABU	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
15	浅野 準 Mr. ASANO HITOSHI	東京消防庁 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
16	白井 孝広 Mr. SHIRAI TAKAHIRO	千葉市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue
17	岡山 賀一 Mr. OKAYAMA YOSHIKAZU	京都市消防局 Fire and Disaster Management Agency, Ministry of Home Affairs	救急救助 Rescue

	氏名 Name	所属先 Occupation	指導科目 Assignment
18	稲葉 健人 Mr. INABA TAKEHITO	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
19	中野 孝之 Mr. NAKANO TAKAYUKI	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
20	小野寺 政貴 Mr. ONODERA MASATAKA	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
21	村上 勇 Mr. MURAKAMI ISAMU	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 Japan Coast Guard	救急救助 Rescue
22	原田 勝成 Mr. HARADA KATSUNARI	JICA 国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team, Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination
23	大野 龍男 Mr. ONO TATSUO	JICA 国際緊急援助隊事務局 Secretariat of Japan Disaster Relief Team, Japan International Cooperation Agency	業務調整 Coordination

第3章 業務調整報告

1 移動・輸送

(1) 携行機材の積み込み

車上通関した携行機材76個（小隊セット22＋中隊セット9＋本部機材他45）とチェックインした機材（救助犬2頭を含む）51個の合計127個を携行した。

(2) トランジット

途中の経由地パリから、チャーター便を利用して、直接アル・ホセイマに向かった。前回のアルジェリア地震では、この経由地でフライトの都合上8時間待機したが、今回はほとんど時間的なロスはなく、スムーズな乗継となった。携行機材はスルー扱いとして、空港で通関せずに直接乗継機に積み込み、この乗り換えによる機材の積み替えに1名立会ったが、パリ空港の気温はマイナス2℃で防寒ジャンパーもないなかでの作業となった。

救助犬に対しては、機長の計らいで機内に乗り込むことができた。

(3) アル・ホセイマ空港着

アル・ホセイマ空港に近くなった時点で、機長から呼ばれ、同空港への着陸許可が下りないが、①近くのナドル空港に降りるあるいは②上空を旋回しながら1時間ほど許可の下りるのを待つ、という2者選択をせまられ、しばらく上空待機することとしたが、まもなく着陸許可が下りほぼ定刻に到着した。

(4) アル・ホセイマ空港

空港では、JICA事務所が首都から借上げた大型バス、マイクロバス1台、トラック1台（もう1台が先方政府から提供され初日のみ使用した）及び大使館、JICA事務所の4WD車それぞれ1台を利用した。

バスの中での睡眠となったが夜間の気温の低下が激しく、また、ときおり余震でバスが揺れることもあり熟睡できない隊員もいた。

帰路はバスとトラック（機材）でアル・ホセイマから陸路首都ラバトへ約10時間（途中昼食休憩約75分）をかけて移動した。

(5) 被災地への移動

合計6台でコンボイを組んで最初の調査被災地アイトカマラに向かったが、この調査地から次の被災地へ向かおうとしたところ、住民による車両の通行阻止にあったため、マイクロバス1台と4WD車両2台の3台で調査を続行することとし、バス及びトラックは空港に接した国

際チームのベースキャンプで待機した。

2 ベースキャンプの立上げ

携行した白のエアータントを空港脇に立上げ、ここに本部機能を持たせ、連絡通信、事務処理、食事をする事とした。

このテントでは、発電機による自家発電を行い、パソコンを設置したほか、プリンターや衛星通信インマルサットをセットアップした。また、無線機、イリジウム、携帯電話、デジタルカメラなどの充電に利用した。そのパソコンと衛星通信機などでJICA国際緊急援助隊事務局や関係機関と連絡をとった。

3 生活環境整備

(1) トイレ

トイレは空港のものを使用したが、一時使用不可の状況となったので、簡易トイレ2基を設置した。前回のアルジェリアの反省も踏まえ、軽量で、組み立てやすく、安定感のある“セピア”を携行したが、好評であった。

(2) 食 事

キャンプに近い状況になったが、2日間は、乾パンやアルファ米、缶詰などの携行食で済ませた。食事の準備は全隊員で実施したため、非常にスムーズであった。調査に行ったチームメンバーにタイムリーに食事を提供できなかったことが反省点としてあげられるが、帰着時間等を連絡取り合いながら実施すべきであった。

(3) 睡 眠

バスの中で、シュラフを使つての睡眠となったが、狭い上に夜間の冷え込みが相当厳しかったため、十分な睡眠がとれる状況にはなかった。

(4) 防寒ジャンパー装備の必要性

熱帯性気候の多い途上国での活動を前提にしたためか、防寒対策は現在の装備のなかにはほとんどない状況でこの地域の朝、夜間の冷え込みは厳しい状況であった。寒冷地に派遣される可能性もあることから、防寒ジャンパーの装備を検討すべきであろう。

※個人携行品のスリム化

個人用ザックを貸与しており、ザックに収容できる範囲の荷物に抑えることを強く要望する。ハンドブックに参考として個人携行品一覧表が掲載されているのでなるべく携行品を最小限に

抑えることを徹底すべきである。

実際に救助活動は最大で3日間であり、特に初日・2日目は夜間を通しての活動となることが多いので着替えも3着程度で十分である。

※交換品の確保

今回は空港前のキャンプ地に各国のチームがテントを張り国際村のようになっており、お互いに訪問しあっていた。また、日本チームのところにきてワッペン、Tシャツ、レスキュー手袋などの交換を要求された。ヨーロッパの救助隊員も思い出づくりをしているようだ。個人用小物を持参すれば外国チームとの交流に有用である。

水

JICA モロッコ事務所でミネラルウォーターの現地購入ができたので、携行した水は最小限に押さえることができた。事前に首都や現地近郊でミネラルウォーターの購入が可能であれば、日本からの搬出は少量で済むために経費の節減につながるので、事前に確認すべきである。

ガソリン及びエンジンオイル

ガソリンの購入はJICA事務所に依頼していたが、当初、購入されたガソリンを調査車両に搭載のまま、現地調査をせざるを得ず、結果として、テント立上げ場所でガソリンがなくなり発電機なしの立上げとなった。車の手配、ガソリンの必要場所への手配などの決断は、活動場所が不定の場合きわめて困難になるが、要点を抑えた調整業務が必要となる。なお、活動拠点の設営にあたっては夜間照明、調理用などに約100ℓのガソリンが必要である。

4 報告・記録

パソコンとインマルサットを活用し、日本の外務省やJICA国際緊急援助隊事務局へ電話及びメール送信（写真や報告書など）にて報告を行った。通信機器のトラブルがよく発生したが、その都度、警察庁の通信隊員が解決し、順調に交信が可能であった。

今回は小規模の限られた人員であったので、専属の広報要員を配置せず、JICAの副団長、業務調整員がデジタルカメラ3台で写真撮影するとともに、調査時の被害状況などをデジタルビデオで撮影した。

第4章 総括・団長所感

1 全体を通じての所感

- (1) 2004年2月24日午前2時半（日本時間午前11時半）の地震発生以来、我が国は直ちにモロッコ政府に対し、国際緊急援助による支援スキームを説明の上、支援方用意がある旨オファーし、右に対するモロッコ側の要請が25日午前零時半（日本時間午前9時半）になされた。モロッコ側の支援要請については多少の時間の差はあるものの、ほぼ同じ時間帯に関係国に対し支援要請を発出したものとみられる。我が方は、右要請を受け、ただちに国際緊急援助隊救助チームの派遣を決定し、要請後約12時間後には成田を出発、パリからはチャーター便で26日現地時間の午前8時半にはアル・ホセイマ空港入りし（地震発生後54時間後）、蘭チームもほぼ同時刻に到着していることを考えれば、極めて迅速な対応であったものと思われる。
- (2) しかしながら、日本チームを含む各国チームの多くが到着した時点で捜索・救助活動を行う段階は経過しており、実際問題として、そのほとんどが救助活動にあたっていない。右については、モロッコ側関係者及び各国チーム等から聴取した情報を集約すると、モロッコ側は被災状況についての情報が錯綜し、次第に事態が悪化していく過程で、外国政府への要請に踏み切ったものの、結果的には、モロッコ側の救助活動のみで対応することができ、外国から救助支援は必要なかったとみるのが妥当と考えられる。
- (3) 我が方救助チームの滞在中、モロッコ内務省防災局（プロテクション・シビル）との交流の機会がもてたことは極めて有意義であった。我が方チームが携行した捜索機材の使用についてのデモンストレーションに加え、救助犬のしつけ及び捜索訓練のデモ開始を行った。最後に、これら最新の機材を供与したことは、先方から大変感謝され、結果として我が方チームの能力の高さを示すことにもなった。
- (4) 救助チームが、アル・ホセイマ空港（我が方を含め各国チームは、同空港内の敷地にテントを張り、キャンプを設置）に到着してから、滞在中、数度にわたり余震が続いた。我が方は、バスの中を宿泊所としたことから、バスの揺れで目を覚ますほどの強さであり、被災住民のみならず、家屋を有する住民もこの余震を恐れて、外泊していることから、住民の疲労、不満、恐怖感が相重なっている。このようなことから、住民は暴徒化し、物資を奪い合う等被災地の緊張度が高まっている。右は、被災地のリフ地方が貧しい地域であるとの歴史的背景、また、1994年の地震の際にモロッコ政府が援助物資を支給すると約束しながらもこれを実施しなかったこと等により政府に対する住民の不満が潜在していることに起因するものと思われる。

(5) 前述のとおり、我が方チームが、被災地域を訪問した際、かかる不満を抱えた住民が、我が方車両の前に立ちはだかり、制止した場面が何回かあったが、彼ら住民が、その都度、我が方の説明及び車両の前のガラス等に貼られている「日本国際緊急援助隊 — JDR, JAPON」を視認し、日本は通させてやろうとの態度を示し、日本が友好的に受け止められていることを知り、感慨深いものがあった。

(6) 今回、我が方救助チームは、被災地において搜索・救助活動を行う機会はなかったものの、モロッコ政府から、日本が迅速に支援を決定し、救助活動のため駆けつけたことについて感謝の言葉が述べられたこと、モロッコのテレビのニュースにおいても、アジアの日本から救助チームが来訪している旨報道されたことから、日本・モロッコ両国の友好親善の観点から一定の役割は果たしたものと考えられる。

2. モロッコ側の本地震に対する自国の対応に関する考えと日本への謝辞

今回の地震では結果的にモロッコ政府、及び被災者が独自に対応したことから海外の救助チームが具体的な救助活動を行う機会がなかった。この点についてモロッコ側の考えを把握するために、鈴木団長が27日午後マンスーリ内務省内務局長を訪問した。以下にその訪問時のやり取りを示す。

団長から、弔意の表明し、空港到着時の国連関係者及びモロッコ側対策本部関係者によって、すでに救助活動が終了段階にある旨ブリーフィングを受け驚いていることと日本・モロッコ双方の救助チーム関係者の交流会を開催して、一部携行機材につきデモンストレーションの実施及び今夕、我が方の緊急援助物資が到着する等発言した。

(1) 今回の地震に際し、日本はいち早く対応してくれた国のひとつであり、モロッコ政府としてこれを高く評価しており、モロッコ政府を代表して感謝申し上げる。

(2) また、モロッコ内務省防災局（プロテクション・シビル）と日本救助チームとの交流会の場が設けられ、日本からの携行機材の一部が供与されたことに対しても感謝申し上げる。

(3) 今回、ヨーロッパを中心に救助活動に駆けつけてくれたチームのなかには、モロッコ政府等の独自の対応による救助活動がほぼ終了していたことから、これらチームの活動する場所がないとして感情的になる面もあったかとも思うが、モロッコ政府は、これら国際支援に対して心より感謝している。

(4) アル・ホセイマ付近の地域においては、いまだに余震が続いているため、被災住民は精神的

に動揺しており、これが物資の支援を求める暴動、デモといったかたちで表れている。また、モロッコ政府としても、これまでこのような大規模な地震に対応した経験もなく、かかる経験不足が物資配給の遅れとして表れている。

- (5) 現在、各国から物資の支援をいただいているが、モロッコ政府は、テントを緊急に必要としている。当初、被災者家族の多くを収容することができる大きなテントを供給す方針でいたが、被災地域は、保守的な考え方が強いところであり、特に、女性のいる家庭にあっては同じテントに他の家族と一緒に住むことを拒んでおり、かかる非常事態にあっても家庭用テントを欲している。さらに、現在も余震が続いており、これまで被災していない住民にあっても、恐怖心から自宅を退避し、多くの住民が野宿をしいられている。

モロッコ政府は、これに対し、自国で生産したすべてのテントを供出したが、これらのニーズに対応できず、現在、緊急にテントを必要としている状況である。

- (6) 日本から支援していただける緊急物資の中には家庭用テントがあったが（注：60張）、更なるテントの追加支援をいただければありがたい（右を受け、団長より、東京に持ち帰り検討することとしたい旨応答）。

付属資料

- 1．活動報告書
- 2．携行機材リスト
- 3．OCHA Situation Report No.1～No.6
- 4．報道関連資料（モロッコ、日本）
- 5．JICA モロッコ事務所便り

1. 活動報告書

モロッコにおける地震災害に対する国際緊急援助隊救助チーム 日報 (2月26日)

1. 日 程

- 4 : 15 ドゴール空港着
- 6 : 55 ドゴール空港発
- 8 : 25 アル・ホセイマ空港着
- 8 : 40 OSOCC レセプション・センターに報告
UNDAC チームより現況についてブリーフィング
モロッコ側 Civil Protection と打ち合わせ
- 9 : 25 アル・ホセイマ空港 SAR キャンプ地発
- 10 : 05 アイト・カマラ村着。村長に面会
- 10 : 45 アイト・カマラ村発。団長、副団長（渡辺、中本、玉越）、大野は被災地視察（ベニ・ハディファ村）に向けて出発。大型バス及び機材トラック2台は一旦空港キャンプ地へ戻り、待機。
- 11 : 25 待機組、空港着
- 13 : 50 視察組、ベニ・ハディファ村視察の後、空港キャンプ地着
- 14 : 05 視察組、空港キャンプ地発
- 18 : 05 視察組、イズモーレン村、タマ・シント村視察の後、空港キャンプ地着
- 20 : 15 OSOCC 定時会議
- 21 : 05 会議終了
- 21 : 20 チーム内ブリーフィング（今後の方針、明日の予定等）

2. 活動報告

(1) パリ — アル・ホセイマ間チャーター便

ドゴール空港到着後、フランス事務所長、次長及びJAL関係者の出迎え及び先導により、人員、機材及び救助犬ともに極めてスムーズにチャーター便への乗り換えを完了した。空港側の配慮により、救助犬にはチャーター機積み込み前に機体周辺での散歩も認められた。今回のチャーター便の利用については隊員からも好評であり、今後とも本方式は迅速に資機材とともに緊急援助隊を派遣する手段として大変有効であると思われる。

(2) OSOCC レセプション・センター

1) UNDAC チームによるブリーフィングは次のとおり。

- ①レスキュー活動のステージはすでに終了段階に入っている。OCHA 本部にもその旨を報告済み。昨日 (2/25) の午後 Virtual OSOCC に載せたので、すでに、そのときはJDR チームは日本を出発したあとだったのではないかと思う。
- ②他の SAR チームはすでに帰国したチーム、なお滞在しているが帰国のために待機しているチームがほとんど。レスキュー活動は展開していない。レスキュー活動のニーズがないため一部のチームは援助物資の分配の支援をしている。
- ③外国 SAR チームによる生存者の救出例はない。遺体を 1、2 体収容したと聞いている。チーム名は不明。

2) モロッコ側責任者 (プロテクション・シビル及び軍幹部) との協議

先方より、冒頭、日本の国際緊急援助隊救助チームの派遣について謝意が述べられ、資機材の輸送等日本チームが活動を展開するために必要なサポートについて協力したい旨の発言があった。

これに対して団長より、モロッコ側の受入れに対して感謝する。日本チームはモロッコ政府からの要請を受けて今回派遣された。日本チームとしては今回の隊員 23 名で何とかモロッコ側を支援したいと考えている。UNDAC チームから、レスキューの段階は終了したとの説明を受けたが、被災地のいずれかで救助活動が継続している場所があれば、これから合流して支援したい意向を伝えた。

先方は、レスキュー活動は終了段階ではあるが、救助活動はなお続いているので、どこか日本の支援を得られる場所があるかもしれない。とりあえず、被害の大きかった村を見てもらってから考えてはどうか。

3) 上記状況のとおり、各国 SAR チームはすでにレスキュー活動を終了していたが、被害が甚大と伝えられている数か村、特に壊滅状態と報道されていたカムラ村については、なお発災後 55 時間あまりしか経過していない状況からも直接現場を確認する必要があるとの判断から、同村を視察することとした。必要に応じ、即オペレーション対応できるよう全資機材 (トラック 2 台分) も携行した。

(3) アイト・カマラ村現地視察

アイト・カマラ村では村長 (内務省行政官) に面会し、被害状況及びレスキュー活動の必要性について確認したが、同村長からは死体も含めレスキュー活動を要する状況はすでにない旨の説明を受けた。村役場周辺には援助物資の分配を待つ民衆が集まっており、それらの民衆数名にも尋ねたが、答えは同じであった。

実際に、空港からの道路周辺また村役場周辺において、全壊している家屋は確認できず、セ

いぜい壁の一部にクラックが入った程度であった。

チームとして、アイト・カマラ村にはレスキュー活動のニーズはないと判断し、次の村へ移動することとした。

村を出発しようとしたところ、村役場周辺に集っていた民衆約 200 名ほどが一斉に路上に進み出て、走行中の車両を制止していた。我が方チームの車両もブロックされた。第 1 号車の大使館車はこれをすり抜けたものの、次の機材トラックが完全に止められた。警察によるデモ民衆の排除により約 10 分後、機材トラックも群集から抜け出た。これに続いたミニバス（借り上げ車）と JICA 四駆も何とか抜けたが、最後の大型バスは約 5 分ほど止められた後、ようやく前進することができた。

今回の民衆のデモ行為は、普段より中央政府から冷遇されている貧困地帯に地震が発生したことから、これを契機にこれまでの不満を露わにして、援助物資を迅速に分配しない村の行政に対して、民衆の怒りの度合いを知らしめるためのものであったと推察する。デモ直後より警察が制止に動いたこともあり、身の危険を感じるほどではなかった。

念のため、予定していた残りの 3 か村については機材トラック及び大型バスは空港キャンプ地で待機することとした。

(4) 他 3 村（ベニ・ハディファ村、イズモーレン村、タマ・シント村）現地視察

被害が大きいとされていた上記 3 村を視察したが、イズモーレン村で大規模な避難民キャンプを確認した程度で、アイト・カマラ村と同じく、他 2 村もレスキュー活動のニーズにつながる状況はなかった。

(5) OSOCC 定時ミーティング

各チームより本日の活動報告がなされたが、レスキュー活動を展開したチームはなかった。報告の概要は次のとおり。

- 1) 日本：本日 2 月 26 日午前 8 時 25 分にアル・ホセイマに到着。その後、被災地である数か村の視察を実施。レスキュー活動を要する現場はなし。2 月 27 日午後 3 時からイズモーレン村でプロテクション・シビルに対して日本チームの一部の携行機材のデモンストレーションを行うとともに、テントやファイバー・スコープ等の機材を供与する予定。2 月 28 日午前にはアル・ホセイマ発予定。また、物資供与として、2 月 27 日午後 22 : 00 にテント、毛布、発電機、ポリタンク等が日本政府より送られる。
- 2) フランス COSI (NGO) : ニーズの高い援助物資としてはテントと毛布。食料は問題なし。しばらく滞在予定。
- 3) ギリシャ：薬品等を供与。2 月 27 日帰国予定。

4) アイスランド：2月25日昼到着。2月27日帰国予定。

5) Mediu du Moand：2月25日午前4時着。毛布、薬品等を供与

(6) 各国チームの現況（各チームより直接聴取）

1) ギリシャ（政府 SAR チーム）

22名。2月26日午前2時アル・ホセイマ着。アイト・カマラ、ベニ・ハディファ両村にてサイトを探したものの、レスキューを要するサイトなし。2月27日帰国予定。

2) オーストリア（市民組織救助犬チーム）

20名。救助犬16頭。2月25日午後1時アル・ホセイマ着。アイト・カマラ村にて試みるものの搜索オペレーションを要するサイトなし。2月26日帰国。

3) ポルトガル（政府 SAR チーム）

29名（含・医師、救助犬）。アル・アゼム村にてサイト選定したが、オペレーション場所なし。帰国のための軍用機待ち。帰国日程未定。

4) オランダ（政府 SAR チーム）

40名（含・医師、救助犬4頭）。2月25日午後3時アル・ホセイマ着。車で入れない村内へオートバイ（チームの携行機材）でサイト選定中。オペレーション活動なし。2月28日帰国予定。

5) スペイン（マドリード市消防）

11名（医師3、看護3、支援要員5）。2月25日アル・ホセイマ着。移動診療者にて2月26日より巡回。

6) アイスランド（政府 SAR チーム）

20名。2月25日午前10時アル・ホセイマ着。イズモーレン村でサイト選定を試みたが、結局オペレーションにいたらず。2月27日帰国予定。

7) イタリア（政府 SAR チーム）

約20名。2月25日正午アル・ホセイマ着。被災した村々を巡回したが、SARチームがやることなし。オペレーションにいたらず。2月26日帰国予定。

3. 今後の活動方針

本日の4か村の視察により、SARオペレーションのニーズがないことが確認できた。本チームとしては、右状況にあわせ発災後72時間も経過したことから、レスキュー活動の段階は実質的に終了しており、今後オペレーションの可能性は極めて少ないものと判断している。

レスキュー活動によるモロッコ側に対する支援、貢献に替えて、明日2月27日午後にイズモーレン村にてプロテクション・シビルのスタッフに対して、搜索機材（棒カメラ等）のデモンストレーション及び取り扱い指導を行った後に、テントなどとともに先方に供与する。これをもって

モロッコ側の災害捜索技術の向上に寄与したい。

さらに、明日午後10時を予定している供与物資のアル・ホセイマ空港到着時に、チーム全員（除・団長）も引渡し式に参加するとともに、モロッコ側の荷降ろし作業をサポートする。物資の被災地までの分配のサポートも検討したが、被災地によっては分配時に民衆が殺到し混乱する可能性も十分考えられることから、見送ることとした。

(2月27日)

1. 日程

- 8 : 30 機材振り分け作業
- 10 : 40 副団長、施設省アル・ホセイマ州地域事務所所長面会
- 12 : 20 副団長、アル・ホセイマ空港キャンプ地着
- 14 : 00 搜索機材のデモンストレーション・リハーサル
- 14 : 45 リハーサル終了
- 15 : 10 デモンストレーション本番
- 15 : 45 デモ終了、機材引渡し
- 20 : 05 OSOCC 定時会議
- 20 : 40 OSOCC 定時会議終了
- 22 : 55 緊急援助物資の積み下ろしスタンバイ
- 23 : 05 同物資搭載のチャーター・フライトがアル・ホセイマ空港への着陸不可との連絡
- 23 : 25 ~バスで待機

2. 活動報告

(1) 搜索機材デモンストレーション及び機材供与

本日午後3時よりモロッコ内務省防災局（プロテクション・シビル）局長 General De Brigade Abdelkrim Elyaagouli 氏ほか同局レスキュー・スタッフ計5名を対象として搜索機材の紹介、及び取り扱い習熟のためのデモンストレーションを行った。総合指揮進行は角田中隊長（東京消防庁）。日仏語通訳は日本大使館八角書記官及びJICAモロッコ事務所中川企画調査員。

デモンストレーション開始に先立ち、角田中隊長（東京消防庁）より、今回の日本チームの派遣に関しては、残念ながらモロッコ側のレスキュー活動を支援する機会がなく、被災者の救命に貢献することはできなかったが、モロッコのレスキュー技術の向上に多少なりとも寄与したいという我々の願いから、今日のデモンストレーションを企画した。この機会を通じて両チームの交流の更なる促進が図られることを期待したい、との本企画の趣旨が伝えられた。

まずは、山川救助犬チーム隊員（警視庁）のリードにより警備犬（救助犬）のしつけ及び搜索訓練のデモ開始。国際緊急援助隊救助チーム初めての女性レスキュー横井隊員（警視庁）が担当犬オディン号と組み、基本的なしつけの様子を披露した。続いて相田隊員（警視庁）がクセノ号と組んで本格的な搜索訓練を実演した。要救助者発見の訓練では、白テントの収納ケースに稲葉隊員（海上保安庁）が潜んだが、クセノ号は同ケース前で内部の人間の匂いを嗅ぎ

つけ鋭く吠え、要救助者の存在を相田隊員に知らせた。(このあと稲葉隊員がケースから現れプロテクション・シビル側一同拍手)

つぎは中谷隊員（東京消防庁）のリードで、棒カメの実演を浅野隊員（東京消防庁）と伊藤隊員（東京消防庁）が、ファイバー・スコープのデモンストレーションを村上隊員（海上保安庁）と栢之間隊員（神奈川県警）が両機材の使用から収納方法までを丁寧に説明した。プロテクション・シビルのレスキューー達は機材近くまで歩みより興味深く両隊員の説明を聞いていた。

続いて、白井隊員（千葉市消防局）のリードで、中野隊員（海上保安庁）と岡山隊員（京都市消防局）が投光器の取り扱い方を説明した。三脚に固定して使用方法と投光部分を三脚部分から外して使用方法などを紹介した。

最後に担架の使用方法について、中野隊員（海上保安庁）及び岡山隊員（京都市消防局）がプラスチック製と布製（金属枠組）の2タイプを紹介した。

約45分間のデモンストレーションの後、実際にプロテクション・シビルの彼らにも直接機材に触れてもらい、各隊員は機材の細かい使用方法や注意事項などについて個別に指導した。

デモンストレーション終了後、本チームよりプロテクション・シビル側に上記機材に加え、白テント、発電機などの関連資機材が供与された。

プロテクション・シビル側からは、「今回の日本チームからの機材供与は今後のプロテクション・シビルレスキュー・チームのより効果的な活動につながり、たいへんありがたい。今回のイベントは大成功 ("Big success") であった」との発言があった。

(2) 供与物資の積み降ろし支援

緊急援助物資の供与のタイミングが本チームのモロッコ／アル・ホセイマ空港キャンプ地での滞在時期に重なったため、本チーム全員で空港での物資の運搬作業を支援する予定であったが、急遽、物資を輸送したフライトの着陸許可が取り消されたため、支援は叶わなかった。

(3) OSOCC 定時会議

今回の会議で報告された各チームの進捗等は次のとおり。

- ①UNDAC チームは明日（2月28日）に帰国。
- ②トルコGEA レスキュー・チーム：レスキュー・オペレーションのサイトは今日もなし。
- ③Telecom Sans Frontier：緊急ステージは終了。
- ④ドイツTHW：明日まで活動する予定。日曜日に国王関連の行事があるため出発は明日土曜日のほうが良い由。
- ⑤イタリアNGO チェスビー：田舎を回ってニーズ調査をしている、最も必要とされているのはテント。

(4) 今後の復旧・復興に係わるニーズ

本日 10 時 30 分、JICA モロッコ事務所中川企画調査員とともに内務省設備局アル・ホセイマ州地域事務所を訪問し、本チームの今回の活動について説明するとともに、今回の地震の被害の実態、及び今後の復旧・復興計画等について情報収集した。

アル・ホセイマ州地域事務所では主として道路交通関連インフラを所管しているが、道路・港・ダムなどに地震による被害はなく、したがって、特段今次災害に係わる復旧・復興事業の計画はない。

上記状況はほかの電気・水道・ガスなどのインフラ分野においても、同様と推察される。ただし、住宅分野に関しては余震に対する恐怖から、特に被害の大きかった村では多くの住民がテントの配布を強く要望しており、モロッコ政府側の供給キャパシティを超えている現状から、追加支援の必要性は高い。

2. 携行機材リスト

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY Minds Tower, Yoyogi 2-1-1, Shibuya-ku, Tokyo, Japan INVOICE

Consinged to : Japan's Embassy in Morocco

No: 20040225

Date: 25-Feb-04

Shipped per:

TEL:

From: Tokyo, Japan

FAX:

To: Rabat, Morocco

Shipping Mark:

Currency: Japanese YEN

on: 25-Feb-04

No.	Cord Number	Description of Goods	Quantity	NOS	Price (yen)	Amount	Weight (kg)	Measurement (cm)
1	A1602	Cord Reel	3	1	14,500	43,500	26	73 × 34 × 40
2	A2009(1/2)	Floodlight Set		1	375,000	375,000	36	42 × 62 × 73
3	A2009(2/2)	Tripod for Floodlight		1	Included above		7	116 × 15 × 13
4	A5101	Fuel Container	1	1	7,800	7,800	4	45 × 33 × 28
5	A5102	Fuel Container	1	1	7,800	7,800	3	29 × 41 × 26
6	A5207	Blanket	10	1	2,800	28,000	17	52 × 72 × 56
7	E0201	Fiber-Scope Set	1	1	2,350,000	2,350,000	62	30 × 63 × 122
8	E0202	Chain Saw	1	1	230,000	230,000	29	100 × 40 × 42
9	E0203	Engine Cutter	1	1	390,000	390,000	49	40 × 94 × 52
10	E0204	Safety Belt Set	1	1	866,000	866,000	69	36 × 89 × 106
11	E0206	Rescue Rope Set	1	1	63,900	63,900	22	41 × 59 × 37
12	E0208	Stretcher Set	1	1	144,000	144,000	28	65 × 221 × 24
13	E0209	Rescue ools (I) A	1	1	814,000	814,000	82	57 × 113 × 46
14	E0211	Rescue Tools (II)	1	1	268,000	268,000	74	38 × 48 × 131
15	E0212	Floodlight Set A	1	1	375,000	375,000	54	52 × 121 × 46
16	E0213	Floodlight Set B	1	1	375,000	375,000	54	52 × 121 × 46
17	E0214	Floodlight Tripod	2	1	Included above		14	21 × 121 × 17
18	E0215	Electric Code Reel	2	1	46,000	92,000	17	37 × 53 × 40
19	E0216	Electric Code Reel	2	1	46,000	92,000	17	37 × 53 × 40
20	E0217	Fuel Container	2	1	13,200	26,400	8	50 × 64 × 34
21	E0218	Tool Set	1	1	51,000	51,000	14	28 × 50 × 31
22	E0219	Gloves Set	1	1	512,125	512,125	36	49 × 87 × 57
23	E0220	Lamp Set	1	1	815,800	815,800	47	40 × 59 × 85
24	E0221	Tent, living shelter	1	1	59,500	59,500	25	35 × 103 × 37
25	E0222	Cooking Stove	2	1	31,400	62,800	6	40 × 42 × 24
26	F0201	Sonar Detector	1	1	1,170,000	1,170,000	15	54 × 24 × 41
27	F0202	Rock Drill (L)	1	1	720,000	720,000	97	55 × 38 × 102
28	F0203	Rock Drill (S)	1	1	410,000	410,000	50	89 × 40 × 47
29	F0204	Rock Drill (S)	1	1	410,000	410,000	50	40 × 40 × 47
30	F0205	Hydraulic Rescue Tools(1/4) Power Unit	1	1	1,815,000	1,815,000	100	60 × 60 × 93
31	F0206	Hydraulic Rescue Tools(2/4) Spreader	1	1	1,634,000	1,634,000	70	55 × 55 × 105
32	F0207	Hydraulic Rescue Tools(3/4) Cutter/Handy Pump	1	1	1,200,000	1,200,000	54	60 × 60 × 105
33	F0208	Hydraulic Rescue Tools(4/4) Ram Cylinder	1	1	723,000	723,000	23	16 × 16 × 22
34	F0209	Electric Hammer Drill	1	1	175,000	175,000	24	73 × 73 × 38

No.	Cord Number	Description of Goods	Quantity	NOS	Price (yen)	Amount	Weight (kg)	Measurement (cm)
35	Y0301	Commodities		1		329,010	45	34 × 52 × 88
36	Y0302	Commodities		1		370,710	32	34 × 52 × 88
37	Y0303	Commodities		1		331,780	37	34 × 52 × 88
38	Y0304	Commodities		1		330,260	43	34 × 52 × 88
39	B0203	Large Size Tent		1		2,490,000	112	43 × 97 × 118
40	B0204	Large Size Tent Attachment		1	Included above		72	33 × 98 × 98
41	B0611	Lodge Type Tent		1	142,000	142,000	41	44 × 100 × 51
42	B1103	Toilet	1	1	57,500	57,500	12	65 × 50 × 61
43	B1104	Toilet	1	1	57,500	57,500	12	65 × 50 × 61
44	B1300	Table	3	1	11,000	33,000	18	63 × 79 × 24
45	B1401	Chair	6	1	4,800	28,800	16	45 × 32 × 76
46	B3016	Sleeping Bag	20	1	23,000	460,000	27	51 × 62 × 68
47	B3017	Sleeping Bag	15	1	23,000	345,000	22	60 × 48 × 68
48	B4309	Electric Generator	1	1	84,000	84,000	45	52 × 44 × 47
49	B4410	Food Set		1	50,000	50,000	17	34 × 60 × 39
50	B4411	Food Set		1	50,000	50,000	17	34 × 60 × 39
51	B4412	Food Set		1	50,000	50,000	17	34 × 60 × 39
52	B4413	Food Set		1	50,000	50,000	20	33 × 60 × 50
53	B4414	Food Set		1	29,850	29,850	26	42 × 42 × 36
54	B4380	Food Set		1	11,520	11,520	9	47 × 32 × 25
55	B4370	Food Set		1	13,300	13,300	13	41 × 31 × 37
56	B4380	Food Set		1	16,450	16,450	13	41 × 31 × 37
57	B4417	Food Set		1	30,750	30,750	27	65 × 49 × 26
58	B4450	Food Set		1	36,400	36,400	18	42 × 41 × 38
59	B4480	Food Set		1	38,550	38,550	29	65 × 50 × 43
60	B4532	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
61	B4533	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
62	B4534	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
63	B4535	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
64	B4536	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
65	B4537	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
66	B4538	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
67	B4539	Bottled Water	24	1	3,480	3,480	14	42 × 28 × 23
68	B4600	Battery Cell	200	1	44,000	44,000	29	21 × 36 × 36
69	B4610	Battery Cell	200	1	32,000	32,000	14	16 × 28 × 23
70	B4620	Battery Cell	400	1	52,000	52,000	10	19 × 30 × 30
71	B4630	Battery Cell	200	1	26,000	26,000	3	23 × 16 × 8
72	A1525	Raincoats	10	1	26,500	265,000	17	48 × 28 × 82
73	A1526	Raincoats	15	1	26,500	397,500	23	48 × 25 × 68
74	A5113	Transformer	1	1	13,000	13,000	6	21 × 18 × 18
75		Rescue Dog 1	1	1	470,000	470,000	44	51 × 92 × 70
76		Rescue Dog 2	1	1	470,000	470,000	51	51 × 92 × 70
77		equipment for dogs	1	1	20,000	20,000	17	41 × 65 × 23
78		Dog food	1	1	20,000	20,000	30	41 × 65 × 23
79	D0201	Medical Equipment		1		177,885	13	40 × 30 × 35

	Total Carton Nos.	Total Amount Japanes YEN	Total Weight (kg)	Measurement (m ³)
	79	23,758,230	2,392	10.7077

Notes: All equipment are not against the Washington Treaty

3. OCHA Situation Report No.1 ~ No.6

Source: UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs

Date: 25 Feb 2004

UN team arrives at Moroccan quake site

(Geneva, 25 February 2004): A United Nations Disaster and Coordination Assessment (UNDAC) team has arrived in Morocco after a powerful earthquake killed more than 550 people in northern part of the country near the coastal city of Al Hoceima. The United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs dispatched the six-member team.

Following consultations with Moroccan authorities, the six-member team will support the efforts of the government, UN country team and local authorities in responding to needs. The team will coordinate on-site search and rescue activities and will assess immediate needs of the affected population.

OCHA is also organising a shipment of relief goods, including cold climate blankets and water and sanitation supplies, from the World Food Programme (WFP) warehouse in Brindisi, Italy.

The earthquake of magnitude 6.5 occurred in the Mediterranean Sea, close to the Moroccan port city Al Hoceima at 2:27 a.m. on 24 February. There was a subsequent aftershock of magnitude 4.1 at 11:04 a.m. the same morning.

A number of villages in the outskirts of Al Hoceima have been badly hit. The villages of Ait Kamra, Tamassint and Imzourn, where most of the inhabitants live in mud structures, are said to be worst hit, and the death toll is said to be more than 550 people, which may rise further.

The Moroccan Protection Civile and the Moroccan Royal Army have been conducting the first search and rescue operations. Additionally, the Moroccan Red Crescent (MRC) is providing immediate relief assistance. IFRC and the MRC have mobilized over 200 staff and volunteers and dispatched relief items, including 2,000 blankets and 100 tents. IFRC says that blankets, tents, clothing, and jerry cans are urgently needed.

The IFRC has allocated CHF 75,000 to start the relief operation and has already dispatched a Field Assessment and Coordination Team (FACT) that is conducting an assessment today.

France, Spain, Austria, Italy, and Luxemburg, among others, have sent search and rescue teams. Belgium has one C-130 with power generator about to leave. Another flight with blankets and medicine will follow.

For further information, please call: Stephanie Bunker, OCHA NY, 917 367 5126, mobile 917 892 1679; Elizabeth Byrs, OCHA Geneva, 41 22 917 2653, mobile 41(0) 79 473 4570.

Morocco - Earthquake OCHA Situation Report No. 2

Ref: OCHA/GVA - 2004/0028

OCHA Situation Report No. 2

Morocco - Earthquake near city of Al-Hoceima

OCHA has dispatched an UNDAC team to the affected area.

Situation

1. An earthquake of magnitude 6.5 occurred in the Mediterranean sea, close to the Moroccan port city Al Hoceima at 0227 hrs on Tuesday 24 February. The earthquake was centred in an area 185 miles (295 km) east-northeast of Rabat. Sizeable aftershocks continued to occur in the early hours of Wednesday 25 February.

2. According to the Moroccan Health Minister, the death toll has risen sharply to nearly 564 people dead. Another 300 people were reported injured, 80 of them seriously. Estimates indicate that there could be 1000 injured. Some of the injured were airlifted to Rabat.

3. Many of the deaths are reported to be around Al Hoceima rather than in the city itself which was built to withstand earthquakes. Preliminary reports indicate that six remote villages in the Rif Mountains are severely affected. There is particular concern over three villages -- Ait Kamara, Tamassint and Imzouren -- where 30,000 people live mainly in mud houses unable to withstand a major earthquake. According to the Moroccan civil defence, the village of Ait Kamara, about 14 kilometres south of Al- Hoceima, was completely destroyed and 18 homes were destroyed in the nearby village of Imzouren.

4. According to media reports, hundreds of people were camped outside not daring to return to their homes for fear of aftershocks. The greatest needs at the moment are to provide shelter to those who have been left homeless -in particular tents and blankets are urgently needed- and to enhance medical assistance to the injured as local medical facilities are saturated.

National Response

5. King Mohamed VI, due to visit the affected area today, ordered all available resources to be mobilized to help with the rescue effort, including armed forces, military helicopters, police and fire-fighters.

6. Armed forces joined the royal gendarmerie and local rescue services in search and rescue operations. Helicopters were also flying in large supplies of search and rescue equipment. Rescuers are reporting difficulties in reaching the affected areas, situated in the foothills of the Rif Mountains and served by narrow and poor roads.

7. The Moroccan Red Crescent (MRC), which is closely coordinating relief efforts with the authorities, has despatched relief items (blankets, tents, mattresses, jerry cans and tarpaulins) and over 200 relief personnel to the area. It is also participating in assessing damages and immediate needs. The MRC also sent a medical team of 4 doctors and 20 nurses to the site.

8. The Mohammed V Foundation provided two planes and a medical team as well as ambulances, medicines and equipment including blankets and 20 tonnes of food.

International Response

9. The Government of Morocco has requested international assistance.

10. Following consultations with officials from the Government of Morocco and the UN Resident Coordinator, OCHA has dispatched an UNDAC team. The UNDAC team will support the efforts of the Government, UN Country Team and local authorities in coordinating the response to the needs of people affected by the earthquake.

11. The International Federation of Red Cross and Red Crescent Societies (IFRC) launched an appeal for 2.8 million Swiss francs (US\$ 2.3 million) to provide assistance to those left injured and homeless by the earthquake. The IFRC appeal is based on a preliminary assessment of the needs and aims to provide 1,500 tents, 30,000 blankets, 15,000 mattresses, 6,000 kitchen sets, heaters and food items to the earthquake survivors.

12. A seven-member Field Assessment and Co-ordination Team (FACT) from the IFRC is on its way to the earthquake zone to provide support to the Moroccan Red Crescent and includes specialists in emergency response, logistics and health. Emergency Response Units (ERUs) for health and water/sanitation are under consideration pending the assessment of the situation. The Melilla branch of the Spanish Red Cross has despatched first aid kits.

13. WHO is on stand-by to help the Ministry of Health upon request. Supplies and technical assistance has been identified for possible support.

14. The UNDAC team reported that so far search and rescue teams from Spain, Holland, Portugal, Iceland, Luxembourg and Italy are in the area. Japan sent a 23-member rescue team and two sniffer dogs due to arrive on the 26 or 27 of February. Small assessment teams from THW Germany, Switzerland and Greece and GEA Turkey have also been deployed to the area.

15. Planes from Spain, Algeria and France carrying emergency workers, relief items and medicines arrived in Al Hoceima airport. Three trucks from the Spanish enclave of Melilla transporting relief items have arrived in the early morning. A French Hercules C130 with urban search and rescue teams and sniffer-dogs has also arrived to the port city town. Two Italians and one Portuguese planes carrying relief items are due to arrive later today.

16. A Spanish plane, a French reconnaissance team and a cargo plane from Belgium are further expected to arrive to the affected area. Germany and the United States offered assistance and mobilised teams of experts including doctors, dog handlers and fire-fighters.

17. OCHA is in close contact with the Office of the United Nations Resident Coordinator in Morocco and will revert with further information as it becomes available.

18. This situation report, together with further information on ongoing emergencies, is also available on the OCHA Internet Website at <http://www.reliefweb.int>.

Desk Officer in Gva:
Telephone: 22-917 12 34
Fax: 22-917 00 23
E-mail: ochagva@un.org

In case of emergency only: Tel. 22-917 20 10

Desk Officer in Gva:
Ms. Heidi Kuttub
Direct Tel: 22 917 3194

Desk Officer in NY:
Mr. Marc van Wynsberghe

Direct Tel: 212 963 8740

Press contact:

(GVA) – Ms. Elizabeth Byrs, direct Tel. 22-917 26 53

(N.Y.) – Ms. Stephanie Bunker, direct Tel. 917-367 51 26

Morocco - Earthquake OCHA Situation Report No. 3

Ref: OCHA/GVA - 2004/0030

OCHA Situation Report No. 3

Morocco - Earthquake near city of Al-Hoceima

The Government has announced that the search and rescue phase is over.

Situation

1. The UNDAC team reports that the latest toll given by the Moroccan authorities following the 6.3 magnitude quake, which occurred early Tuesday 24 February, put the number of victims at 571 dead and 405 injured. Thirty of the seriously injured were airlifted to Rabat. Further assessments are underway in order to estimate the number of affected persons in this region of 200,000 inhabitants.
2. A French reconnaissance team that reached some of the remote villages in the Rif Mountains early Thursday reported it had found no further destroyed hamlets.
3. In terms of shelter needs, it was reported that many people requesting temporary shelters were not homeless but rather would prefer tents to spend the night in the open in fear of aftershocks.
4. According to the UNDAC team, substantial international relief supplies have arrived or are on the way to meet the current needs of the affected population. Through the Resident Coordinator, the Government indicates the following unmet needs (no quantity specified): generators, rescue and rubble removal equipment, lighting equipment, water tanks, and tents and blankets. According to the UNDAC team, the Government is also requesting water purification and airport ground handling equipment.
5. The UNDAC team is making efforts to identify and quantify the priority needs based on field assessment and evaluation of already available resources, in coordination with the EC Civil Protection Unit and ECHO to ensure complementarity of efforts.

National Response

6. The Government has announced that the search and rescue phase is over. Search and rescue teams are finalising their operations. There are still some difficulties reported in reaching the affected areas, situated in the foothills of the Rif Mountain. With the support of the Moroccan authorities, European rescuers have started distributing relief items to victims of the quake.
7. According to media reports, the Minister of Interior said that the Government was distributing 1,300 tents and creating two temporary camps in the village of Ait Kamara and in Al Hoceima. The armed forces would also set up three other camps of up to 400 tents equipped with electricity and drinking water.
8. The Moroccan Minister of the Interior visited the site on Wednesday and King Mohamed VI is due to visit the affected area shortly.

International Response

9. A UN Disaster Management Team (UNDMT) meeting was held today in Rabat under the Chairmanship of the Resident Coordinator, and announced that a UN Country Team inter-agency assessment mission, composed of UNICEF, OCHA and WFP, is due to travel to the earthquake area tomorrow with the UNDAC team leader.

10. At the DMT meeting, UNICEF announced it was sending tents due to arrive tomorrow to the site and stands ready to assist the Government in responding to the health, psychosocial and child rehabilitation needs. WHO has provided medical kits for 3 months for 20,000 people. WFP is undertaking preparations to assist the Government in the food sector. A nutrition specialist will arrive tomorrow from the Cairo WFP Regional Office. UNDP has made available emergency cash grants of US\$ 50,000 for logistics and administrative support.

11. A donor information meeting in Rabat was held today under the leadership of the Resident Coordinator, with the participation of UN agencies and the UNDAC team leader to inform on the state of the current relief efforts.

12. Italy has contributed through WFP with high-energy biscuits and, through OCHA, with tents, blankets and water containers, to emergency relief shipment arranged from the Brindisi warehouse.

13. The European Commission, through its Humanitarian Aid Office (ECHO), is earmarking initial funding of €500,000 for emergency humanitarian aid to the victims of the earthquake. The exact nature of activities to be financed will be decided soon as ECHO obtains full information from partner organisations on the ground about the urgent needs to be covered. ECHO is currently in close contact with a number of European Red Cross societies and NGOs who are preparing their emergency interventions. Possible actions include the provision of clean drinking water, hygiene kits, emergency medical care and shelter.

14. An EU civil protection coordination team has been deployed on the ground. Its mission is to ensure optimal efficiency of the rescue operations by coordinating and facilitating exchange of information between teams from EU member states working on the ground and to liaise with the Moroccan authorities. It is closely cooperating with the UNDAC team.

15. Some 180 European rescue workers have been in northeast Morocco since Wednesday to help with post-quake search and aid efforts. Below are the main assistance provided:

France	A search and rescue team (15 people and 2 dogs) + 2 tons of material have arrived. - First aircraft : 17 tons of humanitarian help as 20 power supply, 2880 blankets, 96 tents Second aircraft : medicines, water tanks
Netherlands	the Dutch government has sent 2 rescue teams of 20 persons, 4 dogs, 25 support staff and 1 medical doctor.
Czech Republic	2100 Blankets
Norway	Norway has responded to the ICRC appeal and so far has contributed NOK 2 million (approx. USD 286.000) through the Norwegia Red Cross to fund family tents, storage tents, blankets, jerry cans, latrine kits and water purification kits.
Luxembourg	Luxembourg will sent power supply, kits medicines, equipment

	for search and rescue teams, communication equipment, 1 vehicle for sniffing dogs and 1 mini bus
Greece	First aircraft : 22 persons for search and rescue team, 2 training dogs, 1 vehicle containing search and rescue materials and devices, 1 mini bus Second aircraft : 5 person rescue team (Hellenic Rescue Team), 4 doctors, 1 person from the Greek ministry of foreign affairs, 1 ambulance, medication, 1000 Blankets
Germany	The German Red Cross already chartered two planes: 1. On 2004-02-26 08:00 UTC with 3.000 blankets; 10 tents (Typ SG-30) 2. During the 2004-02-06 another plane with 7.000 blankets; 250 tents; 500 kitchen sets.

16. Switzerland has sent a small team to assess emergency needs of the population affected by the earthquake. The US DART Team also arrived today.

17. OCHA is in close contact with the Office of the United Nations Resident Coordinator in Morocco and will revert with further information as it becomes available.

18. This situation report, together with further information on ongoing emergencies, is also available on the OCHA Internet Website at <http://www.reliefweb.int>.

Telephone: +41-22-917 12 34

Fax: +41-22-917 00 23

E-mail: ochagva@un.org

In case of emergency only: Tel. +41-22-917 20 10

Desk Officer in Geneva:

Ms. Heidi Kuttub

Direct Tel: +41 22 917 3194

Desk Officer in NY:

Mr. Marc van Wynsberghe

Direct Tel: +1 212 963 8740

Press contact:

(GVA) - Ms. Elizabeth Byrs, direct Tel. +41-22-917 26 53

(N.Y.) - Ms. Stephanie Bunker, direct Tel. +1-917-367 51 26

Morocco - Earthquake OCHA Situation Report No. 4

Ref: OCHA/GVA - 2004/0033

OCHA Situation Report No. 4

Morocco - Earthquake near the city of Al-Hoceima

27 February 2004

Situation

1. There is no major change in the situation. Aftershocks are still occurring several times a day.

Needs

2. The most urgent needs identified are tents and blankets. There is no clearly identified need for food although a temporary gap exists after the closure of several bakeries, groceries and other local shops due to aftershocks.

3. Further assessments were carried out this morning, particularly regarding the health situation. The health and sanitary situation is under control according to authorities. Upper respiratory and intestinal infections are reported by local dispensaries in the Izeburen and Ait Kamara (approximately 30 people per day) as well as in Al Hoceima hospital (200 people under treatment). The most needed medical instruments are stethoscopes, tension metres and antibiotics for the treatment of the above-mentioned infections.

4. Damage assessments maps are available at www.unosat.org.

National Response

5. King Mohamed VI is due to visit the affected area shortly. The airport and roads in the area are expected to be closed all day due to the visit of the King. It is unclear to what extent the airport will be accessible on Sunday 29 February.

International Response

6. Humanitarian partners and search and rescue teams (SAR) have been meeting at the daily evening coordination meeting at Al-Hoceima airport, chaired by OCHA and the EU team. Participants noted that affected areas around Al Hoceima (Ait Kamara, Tamassint, Imzouren and Izeburen) had been extensively assessed. SAR teams were well received by authorities and relief items handled efficiently. Relief distribution to the affected population has increased during the last hours.

Most of the international SAR teams and emergency partners will have left by the end of tomorrow.

7. The UN Country Team inter-agency assessment mission, composed of UNICEF, WHO and WFP, arrived at the site of the earthquake with the UNDAC team leader. UNDAC will handover to the incoming UN interagency mission today. The UNDAC team leader agreed with the Resident Coordinator that a UNDP staff member will be based in Al-Hoceima to act as liaison for the UN with the Government.

8. UNICEF has allocated USD 70,000 for tents, emergency and rehabilitation needs.

9. The European Commission, through its Humanitarian Aid Office (ECHO), has provided EURO 975,000 for emergency humanitarian aid to the victims of the earthquake to the French, Spanish and German Red Cross Societies and to NGOs.

10. Below is an updated summary of the assistance in the field of Civil Protection sent within the EU Civil Protection Mechanism:

Country	Assistance
Austria	Two SAR teams of 34 persons and 20 dogs
Belgium	One C-130 with power and light generators + another aircraft with tents, blankets, purification units and medicine.
Czech Republic	2100 blankets
Denmark	DK send its contribution through ICRC
France	1 SAR team (15 people and 2 dogs) + 2 tons of material. After second request for assistance, 17 tons of humanitarian aid as 20 power supplies, 2.880 blankets, 96 tents and 110 tarpaulins was dispatched.
Germany	2 assessment experts of THW via Luxemburg. 3.000 blankets; 10 tents (Type SG-30) + 7.000 blankets, 250 tents, 500 kitchen sets.
Greece	22 SAR persons, 2 dogs, 1 vehicle containing search and rescue materials and devices, 1 mini bus + medical assistance and 1000 blankets
Iceland	SAR team of 20 people
Ireland	Contribution of 200.000 € via International Red Cross
Italy	3 planes with 32 people + technical equipment + 20 tents + 300 blankets
Luxembourg	Sent 30 persons, dogs and material. After second request for assistance, Luxembourg sent power supply, kits medicines, equipment for search and rescue teams, communication equipment, 1 vehicle for sniffing dogs, 1 mini bus
Norway	Norway has contributed NOK 2 million through the Norwegian Red Cross. The contributions will fund family tents, storage tents, blankets, jerry cans, latrine kits and water purification kits.
Portugal	16 SAR persons, 6 canine teams, 10 power generators, 1 support team with approximately 3 persons. 5.000 blankets
Spain	41 people + 10 dogs, 2000 blankets, 1000 hygiene kits, 150 first aid kits, 100 beds + medicines and technical supplies
The Netherlands	45 SAR people + 1 doctor + 4 dogs

11. Two planes from the German Red Cross are delivering today the following items:

8,000 blankets, 10 tents (30m2 / approx.8-10 people), 400 tents (5-person capacity), 1 four-wheel drive car, 500 kitchen sets (1 per family).

12. The French NGOTelecom Sans Frontières has provided telecommunications facilities to humanitarian partners at the OSOCC during the emergency phase.

13. Turkey GEA also fielded a team of 5 persons on the site today.

14. USAID/OFDA provided USD 50,000 through USAID/Morocco to the Moroccan Red Cross for emergency relief supplies. USAID/OFDA also airlifted 10,000 blankets into Al-Hoceima and is currently preparing additional emergency commodities for delivery to the affected area.

15. The Government of Monaco, in coordination with the UNDP Resident Coordinator in Morocco, allocated USD 30,000 through OCHA for the victims of the quake. In addition, The Monaco Red Cross contributed EURO 20,000 to the IFRC appeal.

16. The Conseil Général des Alpes Maritimes (France) has also contributed EURO 50,000 to the victims of the earthquake through OCHA.

17. OCHA is in close contact with the Office of the United Nations Resident Coordinator in Morocco and will revert with further information as it becomes available.

18. This situation report, together with further information on ongoing emergencies, is also available on the OCHA Internet Website at <http://www.reliefweb.int>.

Telephone: +41-22-91712 34

Fax: +41-22-917 00 23

E-mail: ochagva@un.org

In case of emergency only: Tel. +41-22-917 20 10

Desk Officer in Gva:

Ms. Heidi Kuttub

Direct Tel: +41 22 917 3194

Desk Officer in NY:

Mr. Marc van Wynsberghe

Direct Tel: +1 212 963 8740

Press contact:

(GVA) - Ms. Elizabeth Byrs, direct Tel. +41-22-917 26 53

(N.Y.) - Ms. Stephanie Bunker, direct Tel. +1-917-367 51 26

Morocco - Earthquake OCHA Situation Report No. 5

Ref: OCHA/GVA - 2004/0034

OCHA Situation Report No. 5

Morocco - Earthquake near the city of Al-Hoceima

1 March 2004

Situation

1. The number of casualties rose to 572 after a baby died of head injuries.
2. The UNDAC team reported that as aftershocks continue, many inhabitants of the disaster affected area desert their houses. Critical need for tents persists.

National Response

3. HM King Mohammed VI of Morocco is supervising the relief operations on the spot, after reaching the disaster area on 28 February.
4. More than a dozen helicopters from the Royal Moroccan Air Force flew a total of 24 sorties delivering some 60 tonnes of aid. Helicopters of the Royal Gendarmerie have dropped important quantities of food in 27 villages with difficult access considered as the most affected.
5. The distribution of supplies is gaining momentum and several tent camps supplied with water, food and relief items were established. The Moroccan civil protection, the army and the Red Crescent are fully mobilised.
6. The UNDAC team reported massive efforts of national solidarity underway with relief supplies arriving from all over Morocco and from Moroccans leaving abroad.
7. The Government said it would announce a reconstruction plan for the region soon. It also announced a regional cell would be set up in the region to liaise with national authorities in Rabat to allow an on-the-spot response in case of another earthquake in an area also hit by a quake in 1994.

International Response

8. Virtually all international search and rescue teams have left the affected area.
9. At the coordination meeting held at al-Hoceima airport on Friday 27 February (see para.6 OCHA Situation Report N.4) co-chaired by the UNDAC team and the EU team, the UN Country Team inter-agency assessment mission (see para.7 OCHA situation report 4) was introduced. Participants were informed of the imminent departure of the UNDAC Team .
10. Telecom Sans Frontières, MDM Greece also announced their departure while Save the Children UK, CESBI (Italy), MPDN (Spain), informed about their medium term programme. Secours Islamique (France) informed notably about the imminent delivery of 500 tents and blankets.

11. USAID announced the immediate arrival and delivery of 10,000 blankets (see para. 14 OCHA Situation Report N.4) 1000 tents, medical kits and the arrival of experts in water and sanitation and logistics.

12. The German, French and Italian Red Cross have brought in capacity to assist in the distribution of relief items. The Spanish Red Cross has sent in two relief flights and has also deployed a logistics emergency response unit to ensure there are no bottlenecks as the relief arrives and that materials are moved out quickly for distribution.

13. A total of nine Red Cross and Red Crescent relief flights have arrived in Morocco since Tuesday morning bringing in over 100 tonnes of relief materials in support of the Moroccan Red Crescent emergency operation. More aid will be trucked in over the coming days. Some 90,000 pieces of clothing were brought in from the Finnish Red Cross on a flight supported by DHL as a response to the needs of vulnerable groups such as the elderly and children who are exposed to the harsh weather, particularly at night.

14. Many families will benefit from 1,400 family tents which started to arrive on flights from the Belgian, French, German and Netherlands Red Cross. The German and Netherlands Red Cross are also providing 6,500 tarpaulins, which will assist in meeting the shelter requirements of families living in camps established by the Moroccan Red Crescent. A Norwegian Red Cross flight carried two tented warehouses.

15. It is estimated that 120 planes loaded with humanitarian aid and medical staff from Morocco and many countries around the world have so far landed at the Al Hoceima international airport. Other planes have been landing in neighboring cities while airports of Oujda, Fez and Tangiers have been placed on a state of "maximum alert" to receive additional planes.

16. Romania has also delivered medical supplies and blankets through the EU mechanism amounting EURO 50,000.

17. Considerable quantities of relief have also arrived from neighbouring Red Crescent societies including Algeria, Egypt, Libya and Tunisia. The Iranian Red Crescent announced it will also be sending a relief flight to Morocco.

18. OCHA is in close contact with the Office of the United Nations Resident Coordinator in Morocco and with the UN inter-agency assessment mission, and will revert with further information as it becomes available.

19. This situation report, together with further information on ongoing emergencies, is also available on the OCHA Internet Website at <http://www.reliefweb.int>.

Telephone: +41-22-91712 34

Fax: +41-22-917 00 23

E-mail: ochagva@un.org

In case of emergency only: Tel. +41-22-917 20 10

Desk Officer in Gva:

Ms. Heidi Kuttub, Direct Tel: +41 22 917 3194

Desk Officer in NY:

Mr. Marc Van Wynsberghe, Direct Tel: +1 212 963 8740

Press contact:

(GVA) - Ms. Elizabeth Byrs, Direct Tel. +41-22-917 26 53

(N.Y.) - Ms. Stephanie Bunker, Direct Tel. +1-917-367 51 26

Morocco - Earthquake OCHA Situation Report No. 6

Ref: OCHA/GVA - 2004/0039

OCHA Situation Report No. 6

**Morocco - Earthquake near the city of Al-Hoceima
5 March 2004**

Situation

1. According to the Al-Hoceima Regional Support Committee latest report, the earthquake claimed 628 lives and injured 926 people. Among the injured, 101 are still in hospital, including 14 transferred to Rabat and 2 others to Nador (East). The new figures mark a significant increase from the previous toll of 572 dead and more than doubles the number of injured from an earlier figure of 405 (see OCHA situation reports N.4 and 5).

2. The Al-Hoceima Regional Support committee also said that more than 15,000 people were left homeless by the earthquake, and that 2,539 homes were reduced to rubble, the large majority of them -- nearly 2,500 -- in rural areas where they were mainly built in mud brick.

3. UNICEF reported that four school buildings formerly housing over 5,000 students are completely unusable, and that another dozen are partially damaged. In addition, at least 35,000 children have lost their houses, school supplies and clothing. The Ministry of Education announced that the estimated total cost to repair schools in the area is approximately USD 6.5 million. The official Moroccan Press, the Maghreb Arab Press, announced that schools in the affected region would re-open soon.

4. According to the UNCT inter-agency mission, health needs are under control. The needs were principally related to the existence of low coverage immunization areas (40% in some cases) as well as with general peri-natal care and nutrition surveillance and assistance.

5. The impact on social services and structures seemed relatively limited, with minimal damage to health clinics, electricity cuts limited to the first hours after the quake, at least in urban centres, and apparently limited in range in rural zones surrounding the epicentre. The main hospital of Al-Hoceima quickly received appropriate drugs and equipment and was only in need of additional paramedics.

6. There seems to be no severe damage in the water sector. The latter will nonetheless require extensive support in the area of sanitation and hygiene. Houses and sanitary facilities have been destroyed, and makeshift tent camps can present public health risks related to the management of excreta and waste disposal.

National Response

7. According to the Support Committee, 18,760 tents have been distributed in the region, along with 168,870 blankets, 1,561 tons of food, 106 tons of medicine and 48 tons of clothing.

8. Aid distribution is still continuing. Stronger coordination mechanisms were

established, significantly supported by strengthened assessment and distribution capacity on the ground, especially through the added capacity brought in by the Moroccan Red Crescent Society and several national Red Cross delegations. The national army is also involved to support relief provision.

9. According to the USAID/DART, the Ministry of Health is developing plans to increase sanitation facilities in the official government camps through its implementing partner, the Mohammed V Foundation.

10. According to IFRC, the Moroccan Red Crescent staff and volunteers have distributed some 4,600 tents to survivors in the hardest-hit villages and hamlets of Al-Hoceima province. The distribution of other relief goods, such as hygiene items and kitchen utensils will take place over the coming days. The Moroccan Red Crescent has mobilized more than 330 volunteers to make sure all victims receive adequate assistance. Tents are being handed out to families living in makeshift shelters near the rubble of their homes. In more scattered communities, distributions are conducted from schools and mosques, with heads of families using donkeys to carry the tents back to their villages.

11. A Moroccan Red Crescent mobile clinic is moving from village to village, providing basic health care to people in remote areas. Since the earthquake, it has treated some 350 patients.

12. The tented camp in the town of Im Zouren, managed by the Moroccan Red Crescent, shelters 1,200 people. Meals or food, as well as other relief goods, and essential psychosocial support is provided to earthquake victims in this camp, especially children. Games, music and film screenings are organized on a daily basis, to help survivors overcome the trauma of the disaster.

13. King Mohammed VI has granted the status of "Orphans in State Care" to all children who lost their parents in the earthquake. The Government will provide financial assistance, including education, to these children.

14. Structural experts began inspecting homes in the quake zone, using color code to indicate whether they should be torn down or were still fit for habitation.

International Response

15. The United Nations World Food Programme (WFP) launched a USD 200,000 emergency operation to assist the victims the earthquake. WFP, working together with UNICEF and Moroccan government partners, will provide daily meals - consisting of high energy biscuits and locally-procured cheese and milk - to some 16,000 school children, and one-month rations of wheat flour, sugar and oil to 1,300 families. The aim is to encourage families to send their children back to school and help them to cope with their losses.

16. In the coming days, UNICEF will ship 225 recreation kits, 450 education kits for up to 35,000 children, and a limited number of large school tents, meningitis vaccines and water purification tablets. All of these supplies will be delivered to Ministry counterparts and dispatched to the most needy locations according to distribution plans already agreed upon.

17. The Moroccan Government and UNICEF have decided on a strong "Back to School" campaign in the Al-Hoceima Province which could give psychosocial support and recreation activities to children. UNICEF's appealed for USD 1,512,000 for priority areas: 1) the immediate resumption of education for all children 2) support to reestablishing a safe learning and growing environment with appropriate

psychosocial support mainly through recreation and sports 3) assisting the authorities in a range of health activities in child immunization and 4) meeting the immediate nutritional needs of vulnerable children and monitoring child malnutrition. UNICEF will also conduct an in-depth rapid assessment in the coming days.

18. New emergency health kits provided by WHO to cover the needs of 20,000 people for 3 months arrived on 1 March. Other supplies are on the way to Morocco, and there is continued dialogue with the Ministry of Health through the WHO representative office.

19. The Board of Directors of the African Development Bank (ADB) has decided to provide through an accelerated procedure an emergency grant of USD 500,000 to Morocco. The assistance, obtained from the Special Emergency Relief Fund of the ADB, is intended to meet part of the foreign currency cost of humanitarian aid for the victims of the earthquake. A mission of experts will visit Morocco to assess complementary interventions that could be undertaken by the Bank within the framework of its emergency assistance

20. The Turkish Red Crescent Society donated USD 30,000 in monetary aid through the IFRC team.

21. Catholic Relief Services (CRS) is committing an initial allocation of USD 50,000 to provide tents, blankets and mattresses to victims. Caritas Interparroquial de Melilla has provided a total of 8 containers of humanitarian assistance to the affected area.

22. OCHA is prepared to serve as a channel for cash contributions to be used for immediate relief assistance, in coordination with relevant organizations in the United Nations system. For banking details please contact the desk officers indicated below. OCHA provides donor governments with written confirmation and pertinent details concerning the utilization of the funds contributed.

23. Updates on contributions to this disaster may be found by clicking on Financial Tracking at the top of the page for this disaster on the OCHA Internet Website (<http://www.reliefweb.int/>). Donors are requested to verify this table and inform OCHA Geneva of corrections/additions/values. Donors are encouraged to notify OCHA Geneva of their contributions to this disaster using the OCHA Standardized Contributions Recording Format, available electronically in the above-mentioned Financial Tracking Website.

24. OCHA is in close contact with the Office of the United Nations Resident Coordinator in Morocco and with the UN inter-agency assessment mission, and will revert with further information as it becomes available.

25. This situation report, together with further information on ongoing emergencies, is also available on the OCHA Internet Website at <http://www.reliefweb.int/>.

Telephone: +41-22-91712 34

Fax: +41-22-917 00 23

E-mail: ochagva@un.org

In case of emergency only: Tel. +41-22-917 20 10

Desk Officer in Gva:

Ms. Heidi Kuttub, Direct Tel: +41 22 917 3194

Desk Officer in NY:

Mr. Marc Van Wynsberghe, Direct Tel: +1 212 963 8740

Press contact:

(GVA) - Ms. Elizabeth Byrs, Direct Tel. +41-22-917 26 53

(N.Y.) - Ms. Stephanie Bunker, Direct Tel. +1-917-367 51 26

4. 報道関連資料（モロッコ、日本）

With the exception of public UN sources, reproduction or redistribution of the above text, in whole, part or in any form, requires the prior consent of the original source.

Related Documents:

Latest Emergency Updates: Morocco: Earthquake - Feb 2004

Latest By Country: Morocco

Other ReliefWeb documents by: UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs

Source URL: <http://www.reliefweb.int/>

Home Page: <http://www.reliefweb.int/>
[Comments](#)



UPDATE 1-Morocco quake relief row as toll mounts further.

By Souhail Karam

658 語

2004 年 2月 26 日 21:48

Reuters News

英語

(c) 2004 Reuters Limited

AL HOCEIMA, **Morocco**, Feb 26 (Reuters) - **Morocco's** government set up tent villages on Thursday for thousands of people made homeless by a massive **earthquake**, as anger rose over a rescue effort that has left international aid teams standing idle.

Interior Minister Mustapha Sahel said the official death toll from Tuesday's quake, the worst in over 40 years, had risen to 571, and that the government was doing all in its power to offer psychological help to traumatised survivors.

Moroccan newspapers said the remote terrain and poor weather were hampering the rescue operation. But foreign aid workers said they had been sent away by officials "too busy" to help them locate possible survivors still trapped under the rubble.

"The senior official in (Ait Kamara) told us 200 people died in the village and that two or three were still alive under the rubble, but that he was too busy to show us where they were," said Austrian search and rescue team member Wolfgang Wedan.

In another village, Tazagin, his team were told they were 24 hours too late: "We have come here for nothing. We wanted to help but we can't. They send us away wherever we go," he said.

Eliane Provo Kluit, of the U.N. Disaster Assessment and Coordination Team at Al Hoceima airport, said teams needed the government to tell them where to operate, but added: "There has been no identification of sites where rescue is needed."

As early as Wednesday, villagers made homeless by the tremor measuring 6.5 on the Richter scale staged a sit-down protest on the main road linking this Mediterranean port to the interior, complaining promised aid had failed to materialise.

TRUCKS STORMED

At Al Hoceima airport, an angry crowd of some 100 people blocked trucks containing mattresses and blankets. "It's our stuff!" they shouted at soldiers tried to prevent them from helping themselves.

"I'm not coming down. I've lost my father and my grandfather in the **earthquake**. I don't want my family to die of cold," shouted one man.

Sahel defended the government's handling of the crisis, saying it was distributing 1,300 tents and creating two temporary camps in the village of Ait Kamara and in Al Hoceima.

The armed forces would set up three other camps of 300-400 tents equipped with electricity and drinking water, MAP quoted the interior minister as saying.

Henri Benedittini, the French coordinator of EU rescue teams, praised the government response and said local teams had quickly cleared much of the debris and extracted the bodies.

"When the international rescue teams arrived, the Moroccan civil defence had already done 90-95 percent of the work. They'd done the work for us," he said.

Hideki **Sakata**, head of the Japanese rescue team, said survivors could be found up to 72 hours after the initial quake: "We still have 14 hours of possible work to do, so we are trying to do our best."

But Aziz Mahdawi, a doctor at Al Hoceima's hard-pressed main hospital, was less hopeful: "Yesterday we only had two people brought out from under the rubble. They were suffering from multiple injuries."

Injured were still arriving at the overflowing hospital from remote areas, some on donkeys and other farm animals, he said.

Concern remains over the fate of three villages in the Rif Mountains - Ait Kamara, Tamassint and Im-Zouren - where 30,000 people live mainly in mud houses.

Officials expected the toll to climb further and special prayers will be said in the country's mosques on Friday, which has been declared a national day of mourning.

The quake was North Africa's worst since 2,300 people were killed last May in neighbouring Algeria. **Morocco's** worst recorded quake killed 12,000 in the city of Agadir in 1960.

(Additional reporting by Zakia Abdennebi).

文書 LBA0000020040226e02q00261

類似検索

関連するファクティバ・インテリジェント・インデキシング™

【配信番号 5095☆ 2/7 P】No. 1

政府 モロッコ地震 国際緊急援助隊23人派遣を決定

◎朝日新聞 2004年02月26日 朝刊◇ 4面

※無断複製転載禁止

2004年

国際緊急援助隊 23人派遣を決定

モロッコ地震

政府は25日、地震で大きな被害が出たモロッコに、消防庁、海上保安庁、警察庁などで編成する国際緊急援助隊の救助チーム23人を派遣することを決めた。救助犬2頭も連れていき、被災者の救出活動に当たる。25日夜に日本を出発し、27日未明までに現地入りする予定だ。

【配信番号 5095☆ 7/7 P】No. 6

政府 モロッコへ緊急援助隊派遣

◎東京新聞 2004年02月26日 朝刊◇ 3面

※無断複製転載禁止

2004年

★モロッコへ緊急援助隊
政府は25日、モロッコで起きた地震の緊急援助のため、国際緊急援助隊派遣法に基づき、外務省、警察、消防、海上保安省などをつくる計二十三人の緊急援助チームを派遣することを決めた。
チームは救助用機材を携帯するほか、被災者救助のための訓練を受けた警察犬二匹も連れて行く。同日夜に成田空港を出発した。二十六日夜から二十七日未明にかけて現地入りする見通し。
また、毛布やテント、発電機、ポリタンクなど千六百万円相当の緊急援助物資も供与する。

【配信番号 5095☆ 6/7 P】No. 4

政府 モロッコ北東部地震で救助物資

◎毎日新聞 2004年02月26日 朝刊◇ 5面

※無断複製転載禁止

2004年

■モロッコ北東部地震で救助物資

政府は25日、死者500人以上を出したモロッコ北東部地震で、同国政府からの緊急援助要請を受けて、毛布やテ

ントなどの生活関連物資（1600万円相当）を送ることを決めた。被害者の捜索・救助にあたる国際緊急援助隊救助チーム20人の派遣も決定、同日夜に日本を出発した。

【配信番号 5095☆ 5/7 P】No. 3

政府 モロッコへ緊急援助隊

◎読売新聞 2004年02月26日 朝刊◇ 38面

※無断複製転載禁止

2004年

◆モロッコへ緊急援助隊
政府は25日、モロッコ北東部で起きた地震の被災者救助のため、国際緊急援助隊救助チームを派遣することを決めた。同チームは警察庁と消防庁、海上保安庁のレスキューの専門家や国際協力機構（JICA）、外務省の職員ら計23人。

DONORS ASSISTANCE TO MOROCCO FOR THE AL-HOCEIMA EARTHQUAKE

Last update: 2/26/04 2:22 PM

Country	Staff	Equipment	Funding	Source of information	Comments
Algeria	79 persons, including 9 doctors, 6 dogs	Mobile hospital, rescue equipment, drugs and 10 power generators		MAP 2/25	
Austria				RTM 2/26	TBD
Belgium	Rescue personnel	Humanitarian aid		MAP 2/25	
Canada			TBD	RTM 2/26	Moroccan residents associations
Czech Republic				USAID/OFDA	TBD
Egypt		33 tons of medecines, tents, blankets		MAP 2/25	Egyptian Red Crescent (TBD)
European Union			Euro 0.6 million	MAP 2/25	Assistance through NGOs
France 1	About 16 rescue staff with 19 dogs; 19 doctors	Public works equipment		MAP 2/25	
France 2		17 tons of equipment, incl. tents, blankets and power generators; medicines and water tanks		MAP 2/26	
Germany				RTM 2/26	TBD
Greece	3 doctors	Ambulance, 1,000 blankets and 100 boxes of medical supplies		MAP 2/26	
Holland				USAID/OFDA	TBD
Iceland				USAID/OFDA	TBD
Italy	Rescue and anti-seismic experts, about 30 firemen, dogs	Blankets, tents, power groups		MAP 2/25	
Japan	Rescue team with 2 dogs	15 power generators, 2,000 blankets, 60 tentes and 768 15-liter water cans		MAP 2/26	
Koweit		Emergency humanitarian aid		MAP 2/26	
Luxemburg	K9 squad of 4 persons and dogs	Rescue and medical equipment		MAP 2/25	Red Cross
Lybia				RTM 2/26	TBD
Portugal	16 military firemen, 6-person K9 squad	Power generators, tents and blankets		MAP 2/25	
Spain 1	Rescue squad with 2 dogs, 2 doctors and 15 civil protection staff	Rescue and detection equipment		MAP 2/25	
Spain 2	14 rescue persons	Fire truck, 2 SUV and ambulance		MAP 2/25	City of Mellilla
Spain 3	Reconstruction technical staff (as necessary in the future)	Sanitary and localization equipment	Euro 2.0 million	MAP 2/25	Government of Andalucia
Switzerland 1			Euro 48,000	L'Economiste 2/25	International Federation of Red Crosses and Crescents
Switzerland 2			\$2.3 million	Le Matin 2/25	Fund raising by the Red Cross
United Arab Emirates		Emergency humanitarian aid	EDH 5 million	MAP 2/25 and 2/26	Emirates Red Crescent
United Nations Organizations	Six disaster evaluation experts			Le Matin 2/25	OCHA

United States of America 1	Disaster evaluation expert, water and sanitation specialist, logistician, and three other experts	Tents (1,000), blankets (10,000), 3 WHO emergency health kits for 30,000 persons, water pumping and purification units, water containers, hygiene kits, and 50 power generators	\$50,000	USAID/OFDA	Financial assistance through Moroccan Red Crescent
United States of America 2			TBD	Le Matin 2/25	Web-based fund raising by Moroccan residents

Al Hoceima: Arrivée d'une équipe de secouristes japonais

Un avion japonais transportant une équipe de secouristes représentant les différents services d'aide japonais et deux chiens renifleurs est arrivé jeudi matin à l'aéroport Charif Al-Idrissi d'Al Hoceima. La délégation venue porter assistance aux sinistrés du séisme d'Al Hoceima, est accompagnée d'un chef de mission au Bureau d'aide d'urgence au ministère japonais des Affaires étrangères. A noter que l'aide japonaise comprend également 15 groupes électrogènes, 2.000 couvertures, 60 tentes familiales et 768 jerrycans d'eau de 15 litres chacun.

Synt-L'Economiste/Map - Jeudi 26 février - 9h46

Aides américaine et japonaise pour les victimes du séisme d'Al Hoceima

Rabat - Les Etats Unis vont dépêché une aide médicale pour les victimes du séisme qui a frappé la ville d'Al Hoceima et sa région, annonce un communiqué de l'ambassade américaine à Rabat.

Un avion transportant cette aide, constituée de produits et de matériels de secours, devrait arriver mercredi à Al Hoceima, précise la même source.

L'ambassade annonce également qu'une autre

6

26 Février 2004
MAP ACTUALITE

aide sous forme de kits médicaux, pouvant traiter jusqu'à 30.000 personnes pour une durée d'un mois, arrivera vers la fin de cette semaine.

La garde nationale de l'Etat de l'Utah fournira également des aides pour atténuer les souffrances des populations sinistrées.

D'autre part, le gouvernement japonais a décidé de dépêcher une équipe de 23 secouristes, attendue jeudi à Al Hoceima.

"Dans le cadre des efforts de solidarité internationale du gouvernement du Japon, une équipe de 23 secouristes japonais, dotée de deux chiens de

sauvetage et de matériel de secours, arrivera à Al Hoceima, le 26 février", indique un communiqué de l'Agence japonaise de coopération internationale (JICA) au Maroc, parvenu mardi à la MAP.

Cette équipe aura pour mission de mener des opérations de recherche et de sauvetage et d'assister les sinistrés du séisme.

Le communiqué souligne, d'autre part, qu'une aide d'urgence de 12 tonnes, constituée de générateurs électriques, de câbles d'extension, de réservoirs et de jerricans, sera envoyée incessamment aux populations sinistrées. (MAP)

MAP ACTUALITE

26 FEV. 2004

Séisme d'Al Hoceïma

26.02.2004 | 10h30

MAP

Arrivée à Al Hoceïma d'une équipe de secouristes japonais

La délégation venue porter assistance aux sinistrés du séisme d'Al Hoceïma, est accompagnée d'un chef de mission au Bureau d'aide d'urgence au ministère japonais des Affaires étrangères, a-t-on appris auprès de la délégation japonaise.

L'aide japonaise comprend également 15 groupes électrogènes, 2.000 couvertures, 60 tentes familiales et 768 jerrycans d'eau de 15 litres chacun, a-t-on précisé de même source.

 [page précédente](#)

 [Imprimer l'article](#)

Droits de reproduction et de diffusion réservés; © Le Matin du Sahara et du Maghreb 2001. Usage strictement personnel.
L'utilisateur du site reconnaît avoir pris connaissance de la [licence](#) de droits d'usage, en accepter et en respecter les dispositions.

Arrivée à Al Hoceima d'une équipe de secouristes japonais

Al Hoceima - Un avion japonais transportant une équipe de secouristes représentant les différents services d'aide japonais et deux chiens renifleurs est arrivé jeudi matin à l'aéroport Charif Al-Idrissi d'Al Hoceima.

La délégation venue porter assistance aux sinistrés du séisme d'Al Hoceima, est accompagnée d'un chef

de mission au Bureau d'aide d'urgence au ministère japonais des Affaires étrangères, a-t-on appris auprès de la délégation japonaise.

L'aide japonaise comprend également 15 groupes électrogènes, 2.000 couvertures, 60 tentes familiales et 768 jerrycans d'eau de 15 litres chacun, a-t-on précisé de même source. (MAP)

MAP ACTUALITE

27 FEV. 2004

L'aide des pays frères et amis

Japon

Un avion japonais transportant une équipe de secouristes représentant les différents services d'aide japonais et deux chiens renifleurs est arrivé jeudi matin à l'aéroport Charif Al-Idrissi d'Al Hoceima.

La délégation venue porter assistance aux sinistrés du séisme d'Al Hoceima, est accompagnée d'un chef de mission au Bureau d'aide d'urgence au ministère japonais des Affaires étrangères, a-t-on appris auprès de la délégation japonaise.

L'aide japonaise comprend également 15 groupes électrogènes, 2.000 couvertures, 60 tentes familiales et 768 jerrycans d'eau de 15 litres chacun, a-t-on précisé de même source.

Aide médicale grecque

Un avion C130 grec transportant une équipe médicale pour venir en aide aux populations sinistrées de la région d'Al Hoceima est arrivé jeudi, tôt dans la matinée, à l'aéroport Charif Al-Idrissi d'Al Hoceima.

L'équipe médicale est composée de trois médecins accompagnés d'un représentant du ministère grec des Affaires étrangères, a-t-on

indiqué de sources aéroportuaires.

L'avion transportait également une ambulance, mille couvertures et 100 cartons de produits médicaux, a-t-on précisé de mêmes sources.

Egypte

Deux avions militaires égyptiens transportant des équipements de secours pour venir en aide aux sinistrés du violent séisme qui a frappé la ville d'Al Hoceima et sa région, ont quitté jeudi le Caire pour le Maroc.

Selon des sources du croissant rouge égyptien, les deux avions transportent 33 tonnes de médicaments, des couvertures et des tentes constituant la première tranche de l'aide décidée par le président Mohamed Hosni Moubarak en signe de solidarité avec le peuple marocain en ces douloureuses circonstances.

Le président égyptien, M. Mohamed Hosni Moubarak a eu un entretien téléphonique avec SM le Roi Mohammed VI dans lequel il a exprimé au Souverain ses sincères condoléances et ses sentiments de compassion envers les familles des victimes, soulignant sa

solidarité et le soutien de la République arabe d'Egypte au Royaume du Maroc en cette épreuve.

Pour sa part, Mme Suzane monbarak, épouse du président égyptien et présidente du croissant rouge égyptien, a adressé un message de condoléances et de compassion à SAR la princesse Lalla Malika, présidente du croissant rouge marocain.

Etats-Unis d'Amérique

Un avion transportant dix mille couvertures, don des Etats Unis au Maroc destiné aux sinistrés du séisme de la province d'Al Hoceima, est arrivé jeudi matin à l'aéroport Charif Al-Idrissi de la ville.

Selon un responsable du service de presse de l'ambassade accompagnant cette aide, un autre avion est attendu durant la journée avec, à son bord, des unités médicales pour le traitement de 30 mille personnes. Ces unités ont une autonomie d'action de 30 jours, a-t-il dit. Le même responsable a annoncé qu'une importante aide humanitaire américaine est attendue dans les prochains jours.

AL BAYANE

27 FEV. 2004

Arrivée à Al Hoceima d'une équipe de secouristes japonais

Un avion japonais transportant une équipe de secouristes représentant les différents services d'aide japonais et deux chiens renifleurs est arrivé jeudi matin à l'aéroport Chérif Al-Idrissi d'Al Hoceima. La délégation venue porter assistance aux sinistrés du séisme d'Al Hoceima, est accompagnée d'un chef de mission au Bureau d'aide d'urgence au ministère japonais des Affaires étrangères, a-t-on appris auprès de la délégation japonaise.

L'aide japonaise comprend également 15 groupes électrogènes, 2.000 couvertures, 60 tentes familiales et 768 jerrycans d'eau de 15 litres chacun, a-t-on précisé de même source.

■ اليابانيون
وقد قررت اليابان، فضلاء عن إرسال 23 رجل إنقاذ،
التي جمع بمخيمهم في إيتانكا (استوكهولم)، وتضم المظلية
ومولدات كهربائية، وخيام وغداها، بقيمة نحو 16
مليون ين ياباني (100 ألف دولار أمريكي).

Japon

Le Japon a décidé d'envoyer, en plus de 23 secouristes, un don d'équipements de secours d'urgence (couvertures, groupes électrogènes, tentes) d'un montant d'environ 16 millions de yens.

■ فريق ياباني

أرسلت اليابان فريق مسعفين يتكون من 23 فردا إلى الخسيمة للمساعدة في عمليات البحث والإنقاذ الجارية بالمنطقة. وذكر بلاغ المكتب الوكالة اليابانية للتعاون الدولي بالرباط أنه سعيها من اليابان للمشاركة في جهود التضامن الدولية مع ضحايا الزلزال الذي ضرب منطقة الخسيمة قررت الحكومة اليابانية إيفاد فريق مسعفين يتكون من 30 فردا معززين بتجهيزات ومعدات للإنقاذ ويكلمين مدربين على عمليات الإنقاذ، وإرسال 12 طنا من المساعدات العاجلة تشمل مولدات كهربائية وصهاريج وصفايح محركات ولوازم أخرى.

Equipe japonaise

Le Japon a envoyé une équipe de 23 membres à Al Hoceima pour participer dans les opérations de secours dans la région. L'équipe de secouristes est équipée du matériel de secours d'urgence, deux chiens renifleurs, des groupes électrogènes, réservoirs et d'autres équipements.

TÉMOIGNAGES

Le casse-tête des secouristes

Le séisme qui a frappé la région d'Al Hoceïma, faisant 572 morts sur la côte nord du Maroc, a mis en lumière le casse-tête auquel se trouvent régulièrement confrontés les secouristes étrangers venus sauver des vies et soigner des survivants.

Des équipes de secours spécialisées, venues de pays aussi éloignés les uns des autres que la France et le Japon, ont pu mesurer les complications logistiques de la mise en œuvre d'opérations qui ont été critiquées par des sinistrés pour leur lenteur.

A la frustration des habitants frappés par le séisme - des dizaines de milliers de sans abri - a répondu parfois, celles de certaines équipes de secours qui estiment n'avoir pas été à même de remplir leur mission, en faveur de la population éparpillée dans la montagne du Rif.

"Nous sommes venus ici en réponse à une requête du gouvernement marocain", a rappelé Hideki Sakata, membre de l'équipe "Disaster relief" de l'Agence internationale de coopération du Japon.

"Mais quand nous sommes arrivés sur place, nous avons découvert qu'il n'y avait plus de besoins pour le type de travail pour lequel notre équipe est spécialisée. Nous ne savons pas ce qui a pu se passer, même si la protection civile marocaine a fait un excellent travail", a dit M. Sakata à l'AFP.

"C'est malheureux pour nous qui sommes venus appuyer le travail de secours des Marocains. Nous avons constaté qu'il n'y avait plus besoin de travaux de sauvetage", a-t-il ajouté, appréciant néanmoins que cela ait été "une bonne occasion de se connaître". Son équipe de 23 personnes devait regagner Tokyo après un séjour de 48 heures à l'aéroport d'Al Hoceïma.

Yvon Delsaux, un secouriste français de l'équi-

pe ELISA - qui opère régulièrement en Amérique latine - a lui aussi indiqué que les activités de son groupe dans cette crise n'ont pas toujours été faciles.

"Nous sommes la seule équipe européenne spécialisée dans la distribution d'aide par hélicoptères sur les zones difficiles d'accès, mais nous ne pouvons travailler qu'avec l'accord explicite des autorités gouvernementales", a-t-il dit.

"Le feu vert nous a été donné dans l'heure qui a suivi notre arrivée jeudi soir, ce qui a été très encourageant", a-t-il dit. "Mais le problème a surgi pour l'obtention des autorisations au niveau du staff local", a-t-il raconté, son équipe ayant quand même pu en fin de compte venir en aide à plusieurs personnes blessées qui attendaient de l'aide dans des villages isolés.

Des responsables des secours ont raconté des situations de cafouillage et de perte de temps lorsque plusieurs équipes se croisent dans une zone d'habitation dispersée, sans toujours avoir d'affectation géographique précise pour leurs actions.

Le besoin d'intervention sans délai pour sauver des vies après une catastrophe de ce type est souligné également par le Français Jacky Rusquart et par des membres de l'équipe de secours islandaise, qui rappellent que les personnes ensevelies encore en vie doivent impérativement être dégagées dans les premières 72 heures après le sinistre.

"Il faut réagir dans les toutes premières heures. Seuls les secouristes du pays peuvent le faire dans les meilleures conditions", souligne l'Islandais Valgardur Saemundsson. "C'est difficile pour nous, venant de si loin, d'intervenir immédiatement. C'est impossible", conclut-il. (AFP)



ÉVÉNEMENT

Séisme d'El Hoceïma Retour au calme

• La visite du Souverain a rassuré la population

• Les militaires assistés par les ONG ont veillé à une meilleure distribution des aides

• Des maladies commencent à apparaître

LA vie reprend à Al Hoceïma même si l'activité sismique ne s'est pas totalement apaisée. A l'heure où nous mettions sous presse, une dernière secousse tellurique d'une magnitude de 3,1 sur l'échelle de Richter s'est produite le dimanche à 10h15 mn.

D'ailleurs, le Souverain qui s'est rendu à Al Hoceïma samedi 28, se trouvait, lui aussi, au moment d'une réplique de magnitude 4, en visite à l'Hôpital Mohammed V. Une visite qui a mis du baume au cœur des sinistrés et leur a rendu espoir. L'accueil chaleureux qui lui a été réservé par les habitants traduit la reconnaissance de la sollicitude royale. Ce rapprochement a permis à Sa Majesté Mohammed VI de suivre de près les opérations de secours et distribution

d'aides, qui ont connu un début plutôt chaotique.

L'aide internationale a continué d'affluer du monde entier. Américains, Japonais, Grecs, Français, Italiens, Espagnols, et de nombreux autres pays ont ainsi envoyé aide alimentaire, vestimentaire, médicale et équipes spécialisées. Du côté national, l'entraide est aussi manifeste. La banque alimentaire a réussi à mobiliser ses structures pour collecter les nombreux dons spontanés effectués par des mécènes. Ils proviennent de toutes les régions du Royaume et même des Marocains vivant à l'étranger. Il s'agit principalement de couvertures, médicaments, aliments, tentes et vêtements. Par ailleurs, un compte spécial (101) a été ouvert par Banque Al-Maghrib afin de recueillir les dons.

Un plan d'urgence est en cours d'élaboration par le gouvernement. Il s'agira en priorité de reconstruire les villages détruits. De même qu'un plan de soutien de l'activité économique et de mise en place d'équipements de base sera bientôt mis en œuvre.

Mais sur le terrain, les sinistrés souffrent encore de nombreux manques, notamment en matière de pédo-psychiatrie. Plusieurs enfants sont encore en état de choc, un traumatisme qui se traduit par une perte de la parole.

(Suite en page 4)

モロッコ地震で緊急物資援助＝政府

福田康夫官房長官は25日午後の記者会見で、モロッコ北部の地震被害に対し、毛布や発電機、テントなど総額1600万円相当の緊急物資援助を行うと発表した。また、同国に派遣する国際緊急援助隊救助チームについて、当初の20人から23人に増員、26日中に現地入りするとの見通しを示した。同地震による邦人被害がなかったことも明らかにした。（時事通信）

[2月25日17時3分更新]

 このニュースについて話そう！

 掲示板にあなたの意見を書こう！

前後の記事 - [政治]

- 道州制基本法の成案策定へ＝自民議連(時事通信) - 25日(水)17時4分
 - 不良債務解消を支援＝4市営地下鉄向けに－総務省(時事通信) - 25日(水)17時3分
 - モロッコ地震で緊急物資援助＝政府(時事通信)
 - 故池田氏の合同葬しめやかに＝「活躍はこれからだった」－小泉首相(時事通信) - 25日(水)17時3分
 - 北朝鮮の対応見極める＝6カ国協議で福田官房長官(時事通信) - 25日(水)17時3分
-

社会ニュース - 2月26日(木)1時3分

国際緊急援助隊救助チーム出発＝モロッコ地震で、救助犬も一成田

モロッコ北部を現地時間の24日未明に襲った地震で、日本政府の国際緊急援助隊救助チームが25日夜、モロッコに向け成田空港を出発した。

外務省の鈴木栄一国際緊急援助室長(55)を団長に、警察庁や消防庁、海上保安庁などの23人で構成。派遣期間は約1週間。

救助犬2匹も同行し、パリ経由で現地時間の26日中に地中海に面したモロッコ北部の港湾都市アルホセイマに入る予定。(時事通信)

[2月26日1時3分更新]

 このニュースについて話そう！

 掲示板にあなたの意見を書こう！

前後の記事 - [社会]

- 千葉大教育学部、2次試験で出題ミス(時事通信) - 26日(木)1時3分
 - 店内で幼稚園女児連れ去り＝自称パートの男逮捕－福岡巡查事件の佐賀・鳥栖市で(時事通信) - 26日(木)1時3分
 - 国際緊急援助隊救助チーム出発＝モロッコ地震で、救助犬も一成田(時事通信)
 - 女児2人車に連れ込む＝抵抗し脱出、中年男を捜査－静岡(時事通信) - 26日(木)1時2分
 - 昼火事で老夫婦？死亡＝東京(時事通信) - 26日(木)1時2分
-

他国からの救助チームも活動ができたチームはほとんどありませんでした。我々が訪ねたイムズーレンの市街地では所々4・5階建てのビルが崩壊しており、がれきを取り除くために活用された建設機材にはODAマークが張られていて我が国無償資金協力の機材も今次災害で活躍している様子が窺えました。我々は翌日22時に到着予定のテント、毛布等援助物資を待つ一方、せっかく持ってきた救助用資機材を今後の災害に活用してもらうようProtection Civileに供与することとし、がれきの中の生存者を探索する棒状カメラやファイバースコープ、照明器具、FRP製担架、エアーテント等をデモンストレーションして見せ（他国のチームも興味深く見にきていました）チームの各隊員からProtection Civileの各隊員に詳しい使用法を教授し引き渡しました。このような供与を行ったのは我が国だけであつたようで、Protection Civileの責任者からは非常に感謝され、日本の高い救助技術を是非学びたいと言っていました。援助物資はその夜、空港側の事情で他国の航空機とともにウジダ空港に回され、翌土曜日にナドール空港経由で陸送されアルホセイマ空港に着いたのは18:30頃でした。

滞在中数度の余震があり、ホテル泊は危険を伴うのでチームは空港敷地内に駐車した大型バスで寝泊まりし窮屈な面もありましたが、他国チームとTシャツ交換をしたり交流もありました。

今回の援助隊派遣では本来の救助活動を行うことができずチームは予定を短縮して日本に帰国することになりましたが、日本からのチームの来訪、物資の供与は多数の当地新聞でも取り上げられていました。